

兼定島公舎屋根・外壁改修工事(C棟・F棟)

図面番号	図面名称
A-01	建築改修工事特記仕様書(その1)
A-02	建築改修工事特記仕様書(その2)
A-03	建築改修工事特記仕様書(その3)
A-04	建築改修工事特記仕様書(その4)
A-05	建築改修工事特記仕様書(その5)
A-06	敷地案内図、配置図
A-07	面積表及び求積図
A-08	仕上表、1階平面図(C棟)
A-09	2階、PH平面図、屋根伏図(C棟)
A-10	立面図(C棟)
A-11	仕上表、1階平面図(F棟)
A-12	2階、PH平面図、屋根伏図(F棟)
A-13	立面図(F棟)
A-14	部分詳細図
A-15	仮設計画図

Table with 4 columns: Item No., Item Name, Description, and other details. Contains sections for specialized workers, adhesive application, repair work, and floor repairs.

Table containing sections 4, 5, and 6, detailing coating and repair work for various building materials like tiles, plaster, and wood. Includes material specifications and application methods.

Table containing sections 7 through 15, detailing window treatments (curtains, shades), metal work (steel reinforcement), and door/window hardware. Includes performance standards and material requirements.

Table containing sections 16 through 18, detailing glass work (windows, doors) and masonry. Includes safety standards, material types, and installation requirements.

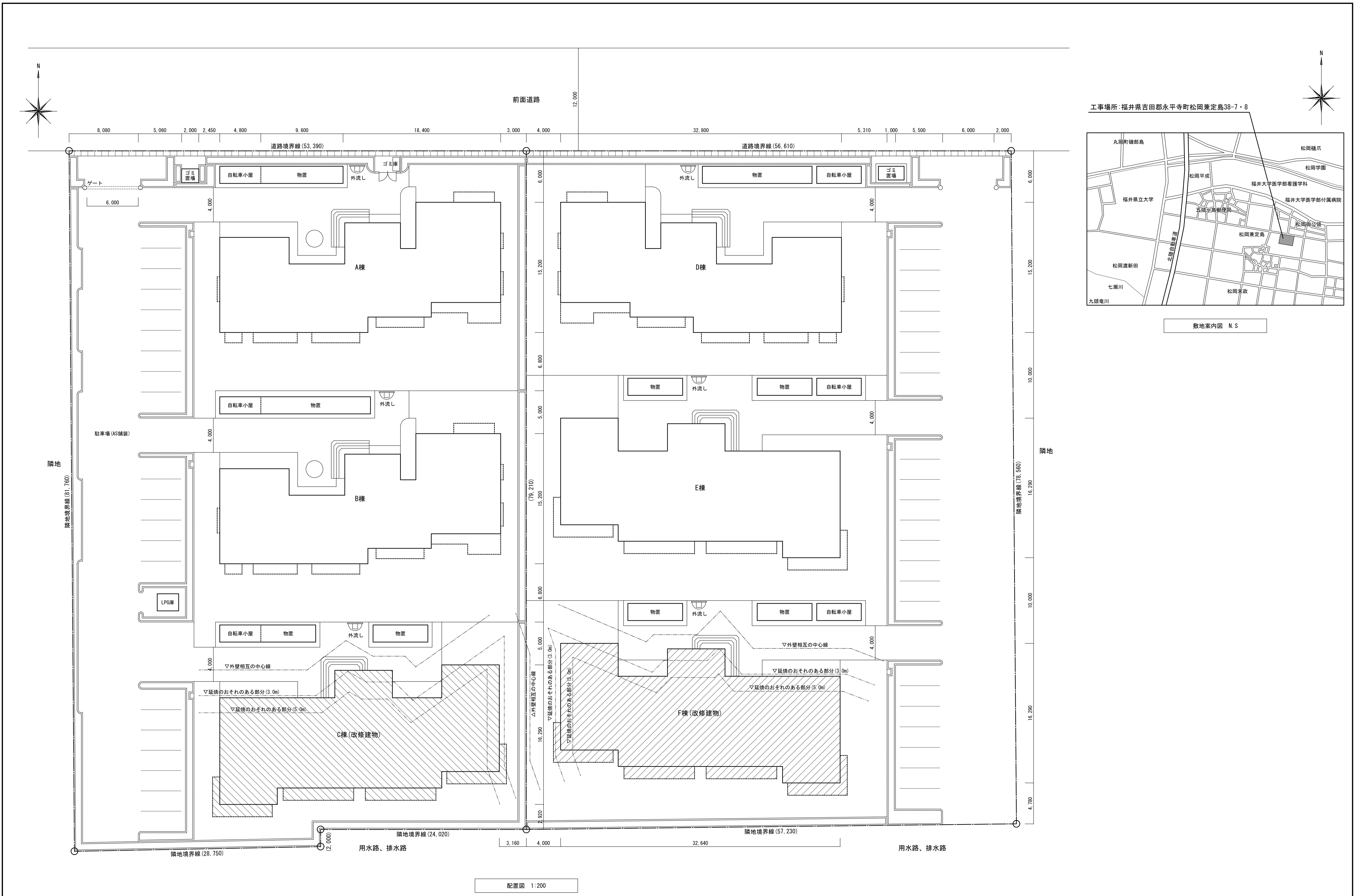
16. セルフレベリング材塗り	標準的な曲がりの役物は一体成形とする 試験張り ・行う [6.16.3] 見本焼き ・行う [6.16.4] 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [6.16.4]
17. ブラインド	・せっこう系 (施工箇所および厚さ ※仕上表による) ・図示 ・セメント系 (施工箇所および厚さ ※仕上表による) ・図示 ・再使用する (養生方法:) ・新設する [2.3.1][5.1.6] (20.2.12)
18. カーテン	・再使用する (保管場所:) ・新設する [2.3.1][5.1.6] (20.2.14)
19. カーテンレール	再使用する (養生方法:) ・新設する [5.1.6] (20.2.14)
20. ブラインドボックス およびカーテンボックス	再使用する () ・新設する [5.1.6] [5.2.4]
21. フリーアクセスフロア	再使用する () ・新設する [5.1.6] [5.2.4]
22. 移動間仕切	※耐荷重性能 (5000N、高さ3000以上) については平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもまたは同等のものとする。 施工箇所 寸法 (mm) 高さ (mm) 耐震性能 所定荷重 帯電防止性能 (U値) 漏えい抵抗 表面仕上げ材 ・ 0.0G ・ 3,000N ・ 5.2以上 ※1×10 Ω ・ 帯電防止床 ・ 0.6G ・ 5,000N ・ 3.2以上 より大きい タイル ・ 1.2以上 ・ 1.2未満 ・ タイルカー ・ ペット
23. 移動間仕切	表面仕上材の品質・性能は、標準仕様書19章による。 構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 コンセント本体 ・別途設備工事 配線用取り出し用開口 ※対応品または工場加工品 (インナータイプコンセント取付けタイプとし容易に破損しないものとする。また、全ての パネルに箇所程度設ける) 空調用吹き出し (吸い込み) パネル ※なし ・有り ※固定式 ・可変式) 施工箇所 (※図示)
24. トイレブース	遮音タイプの天井裏は図示による ハンガーレール取付下地補強 ※図示 ハンガーレールの躯体または下地補強材に対する固定は溶接とする 遮音タイプの天井裏は図示による ハンガーレール取付下地補強 ※図示 ハンガーレールの躯体または下地補強材に対する固定は溶接とする

25. 表示	(20.2.10)
26. 天井見切縁	27. 天井点検口
29. 床点検口	32. かざ箱
⑦ 塗装改修工事	1. 材料 建物内部に使用するユリア樹脂等を付いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ [7.1.3] 防火材料 [7.1.3] ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・次の箇所を除き防火材料とする (箇所)
⑧ 塗装業者	・塗装工事および仕上げ塗材仕上げの塗り面積の合計が概ね500m ² 以上の工事、または塗装専門業者が元請業者である工事 ※日本塗装工業会の会員 (「日本塗装工業会指導要領」に基づき、指導員の指導を受けること。) ・上記に該当しない工事 ※監督員の承諾する業者
3. 下地調整	既存塗膜の除去範囲 (塗装えてR8の場合) [7.2.1][表7.2.1~7.2.7] ※塗替え面積の30% ・図示 下地調整 [7.2.2~7.2.7][表7.2.1~7.2.7]
4. 錆止め塗料塗り	錆止め塗料塗りの種類 [7.3.2~7.3.3][表7.3.1~7.3.4]

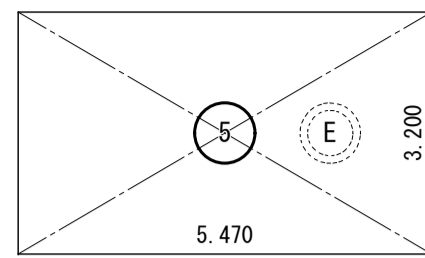
⑤ 塗装	[7.4.2~7.14.2][表7.4.1~7.14.1]
8 耐震改修工事 共通事項	1. 適用範囲 [8.1.1] 工事内容 ・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・鉄骨プレースの設置工事 ・柱補強工事 (溶接金網巻き工法または溶接閉鎖フープ巻き工法) ・柱補強工事 (鋼板巻き工法または帯板巻き工法) ・柱補強工事 (連続繊維補強工法) ・耐震スリット新設工事 ・免震改修工事 ・制振改修工事 ・土工事及び事業工事 工事種別 ・施工調査 (施工計画調査、施工数量調査、調査のための破壊部分の補修) ・撤去工事 (設備機器配管および仕上げの取り壊し・撤去 (下地の一部分は全てを含む)、 構造体のはつり) ・鉄筋工事 ・コンクリート工事 ・あと施工アンカー工事 ・鉄骨工事 ・グラウト工事 ・連続繊維補強工事 ・スリット新設工事 ・その他工事
8-1 撤去工事	1. 既存仕上げ等の撤去 [8.21.2][8.22.2][8.23.2][8.24.3][8.26.5][8.27.2] ※図示 ・新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分 ・既存コンクリート撤去範囲に接面する部分 ・ 既存機械設備、配管の撤去、新設、移設等の処置 ※設備機器および配管、壁等の撤去および処分は本工事の範囲としない ・本工事の範囲として図示された設備機器および配管、壁等の撤去および処分 ・ 2. 既存コンクリートの撤去 [8.21.2][8.22.2][8.23.2][8.24.2][8.26.5][8.27.2] 撤去する既存コンクリート内の鉄筋の切断 切断範囲 範囲 適用 ・既存鉄筋は切断せず残す ※図示 ・全ての撤去部分 ・適用なし ・コンクリート撤去範囲の周囲 ※図示 ・全ての撤去部分 残す一定長※継手長さ より一定長を残し切断 ・適用なし ・コンクリート撤去範囲の鉄筋 ※切断せず残す範囲を除く撤去する既存 鉄筋コンクリートの範囲 はつり出した鉄筋の処理 ※鉄筋に損傷を与えないように適切な養生を施す 撤去する既存コンクリート内にあった鉄骨の処理 ※コンクリート等を除去し鉄骨を現す 3. 既存鉄骨の撤去 [8.27.2] 撤去範囲 ※図示 4. 既存コンクリートの表面目荒らし [8.21.3][8.22.3][8.23.3][8.26.2][8.27.3] 目荒らしの範囲 ※既存コンクリートとの打継ぎ面全面 ※既存コンクリートとモルタルまたはグラウト材の充填部の接合面 ・図示 ・ 目荒らしの程度 ※平均深さ2~5mm、最大深さ7mm程度の凹凸を50~100mm間隔程度で施す。 ・図示
8-2 鉄筋工事	1. 鉄筋の種類 [8.2.1][表8.2.1] 鉄筋の種類 種類の種類 径 (mm) ※SD295A ※SD345 ・ ・

2. 溶接金網	網目の形状寸法および鉄線の径 [8.2.2] 網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm) 使用部位 6φ 100×100 丸鉄線 ・保護コンクリート 6φ 150×150 丸鉄線 ・コンクリート舗装
3. 鉄筋の加工および組立て	鉄筋の種類に応じた継手工法 [8.3.4][8.4.2][8.4.3] 部位 継手方法 径 (mm) 柱・梁の主筋 ※ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 その他 ※重ね継手 継手位置 [8.3.4] ・図示による 柱及び梁の主筋の重ね継手長さ ・図示による 耐力壁の重ね継手の長さ ・図示による 鉄筋の定着長さ ・図示による 鉄筋のかぶり厚さ ※改修特記仕様書8.3.6による ・図示
5. 機械式継手	適用箇所 ・図示による () H12建設省告示第1463号に適合する性能 ・A級 機械式継手の種類 ・図示による ()
6. 溶接継手	適用箇所 ・図示による () H12建設省告示第1463号に適合する性能 ・A級 溶接継手の工法 ・図示による ()
7. 柱の配筋	帯筋の組立ての形の種別 [8.3.4][参考図1.1] H形 ・W-I形 ・W-II形 (フレア溶接部を2箇所としたもの)
8. 梁の配筋	あばら筋の種類、径および間隔 ※図示 (参考図3.2)
9. 壁の配筋および補強	壁の配筋および壁開口部の補強 ※図示 [8.3.7]
10. 各部配筋	※標準仕様書の各部配筋参考図の図および表による ・図示 (5.3.7)
11. ガス圧接	圧接完了後の試験 [8.3.8] (5.4.9) ※超音波探傷試験 ・引張試験
12. 割製補強筋	割製補強筋の適用 [8.21.6][8.22.7] 種類 材料 材質 径 本数ピッチ等 適用箇所 ※スバイラル筋 ※鉄筋コンクリート用棒鋼 ※S R235 ※6φ (スバイラルの径 (mm)) ※図示 ・9φ (スバイラルのピッチ (mm)) ・はしご筋 ※鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋) ・SD295A ・D10 壁面内方向筋 () 壁面外方向筋 () ・9φ ・100×100
8-3 コンクリート工事	1. コンクリートの種類および強度 [8.1.3][8.1.4] ※普通コンクリート 設計基準強度 F _c (N/mm ²) スランプ 適用範囲 ・24 ・21 ・ ・ 2. セメントの種類 [8.2.5][表8.2.3] ※普通ポルトランドセメントまたは混合セメントのA種 上記の普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210 (ポルトランドセメント) に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下であること。 ・高炉セメントB種 (適用箇所) ・フライアッシュセメントB種 (適用箇所) 3. 骨材 [8.2.5] アルカリシリア反応性による区分 ※A ・B 4. 混和材料 [8.2.5] ・混和剤 混和剤の種類 ※改修特記仕様書8.2.5(4)(a)による ・混和材 混和材の種類 ※改修特記仕様書8.2.5(4)(b)による 5. 構造体用モルタル [8.2.6] 構造体用モルタル 圧縮強度 () フロー値 () 6. 構造体強度補正値および適用期間 [8.2.5] (6.3.2) (表6.3.2) (6.12.2) 地区 補正値 3N 暑中6N 6N 福井・丹南地区 3/9~7/13 7/14~9/4 11/18~3/8 9/5~11/17 大野・勝山地区 3/16~7/19 7/20~8/30 11/9~3/15 8/31~11/8 福井地区 3/6~7/11 7/12~9/4 11/23~3/5 9/5~11/22 ・構造体強度補正値 () N ・高炉セメントB種 地区 補正値 3N 暑中6N 6N 福井・丹南地区 4/2~7/13 7/14~9/4 10/21~4/1 9/5~10/20 大野・勝山地区 4/6~7/19 7/20~8/30 10/14~4/5 8/31~10/13 福井地区 4/2~7/11 7/12~9/4 10/25~4/1 9/5~10/24 ・構造体強度補正値 () N

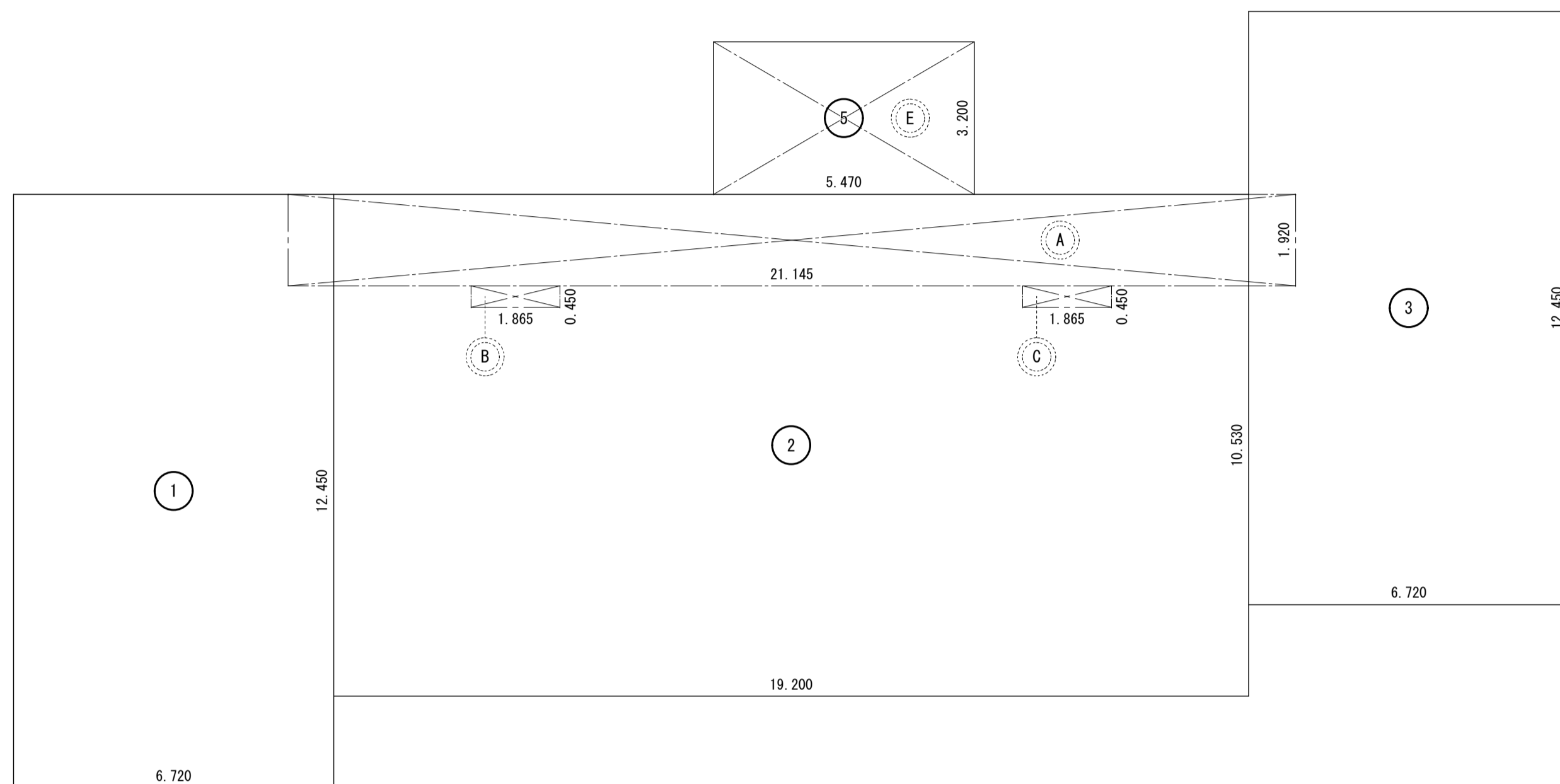
9 ①一般事項 環境配慮改修工事	<p>関係法令等の遵守 大気汚染防止法、労働安全衛生法、石綿障害予防規則（以下石綿則） 特定化学物質等障害予防規則、廃棄物の処理および清掃に関する法律（以下廃掃法） 福井県アスベストによる健康被害の防止に関する条例 既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説 建設・解体工事に伴うアスベスト廃棄物処理に関する技術指針・同解説</p> <p>施工調査 [9.1.1] ※アスベスト含有建材の有無 目視、および既存資料による製造年等の確認 ・建材中の石綿含有率の分析 分析方法 ・JIS A 1481-2 または JIS A 1481-3による 分析結果については、監督職員に報告すること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>定性分析</th> <th>定量分析</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・ (試料数:)</td> <td>・ (試料数:)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ (試料数:)</td> <td>・ (試料数:)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ (試料数:)</td> <td>・ (試料数:)</td> </tr> </tbody> </table> <p>採取箇所は図示</p> <p>アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (石綿含有率5質量%超) 測定室 ()</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用 測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点 (各施工箇所ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室</td> <td>各2点～5点</td> <td>(注)1</td> </tr> <tr> <td>測定2</td> <td rowspan="2">処理作業中</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>計2点</td> <td>大気</td> </tr> <tr> <td>測定3</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点～5点</td> <td>(注)1</td> </tr> <tr> <td>測定4</td> <td rowspan="2">処理作業中</td> <td>負圧・除じん装置の排出吹出し口</td> <td>出口吹出し風速1m/sec以下の位置 各2点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>測定5</td> <td>処理作業室外(敷地境界)</td> <td>4方向各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>測定6</td> <td>処理作業後(シート養生中)</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>測定7</td> <td>処理作業後シート</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点～5点</td> <td>(注)1</td> </tr> <tr> <td>測定8</td> <td>撤去後1週間以降</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>計2点</td> <td>大気</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 各施工箇所ごとの作業室面積が50m²以下または2点、300m²以下または3点、1000m²以下または4点、1000m²を超えるものは5点とする。</p> <p>○行う (石綿含有率5質量%以下) 測定室 ()</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用 測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点 (各施工箇所ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>測定2</td> <td rowspan="2">処理作業中</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>計1点</td> <td>大気</td> </tr> <tr> <td>測定3</td> <td>処理作業室内</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>測定4</td> <td rowspan="2">処理作業中</td> <td>負圧・除じん装置の排出吹出し口</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>測定5</td> <td>処理作業室外(敷地境界)</td> <td>計1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>測定6</td> <td>処理作業後(シート養生中)</td> <td>処理作業室内</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>測定7</td> <td>処理作業後シート</td> <td>処理作業室内</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>測定8</td> <td>撤去後1週間以降</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>計2点</td> <td>大気</td> </tr> </tbody> </table> <p>アスベスト粉じん濃度測定方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>測定3</th> <th>測定1, 2, 4, 6, 7, 8</th> <th>測定5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計数機器</td> <td>位相差顕微鏡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>メンブレンフィルタの直径</td> <td>25mm</td> <td></td> <td>47mm</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量</td> <td>1 l/min</td> <td>5 l/min</td> <td>10 l/min</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間</td> <td>5min</td> <td>120min</td> <td>240min</td> </tr> <tr> <td>試料の透明化</td> <td colspan="3">アセトン・トリアセトン法またはシュウ酸ジエチル法</td> </tr> <tr> <td>計数条件</td> <td colspan="3">総アスベスト繊維数200本または視野数50視野</td> </tr> <tr> <td>計数アスベスト</td> <td colspan="3">直径3µm未満、長さ5µm以上、長さど直径比3:1以上</td> </tr> <tr> <td>定量限界</td> <td>5.0 f/l</td> <td>0.5 f/l</td> <td>0.3 f/l</td> </tr> </tbody> </table> <p>処理を行う吹付けアスベストの仕様等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>覆層塗材RC</td> <td></td> <td>※図示 ○塗膜の劣化、剥離部分のみ</td> </tr> </tbody> </table> <p>処理工法 [9.1.1][9.1.3] ※除去工法 (固形化 ・ 行う) ・ 封じ込め工法 劣化の著しい部分、下地との接着が不良な部分については改修標準仕様書9.1.3により除去し、粉じん飛散防止処理剤を用いて封じ込め処理を行う 封じ込めの工法は施工業者の仕様により、除去物および汚染物質の処理等は改修標準仕様書9.1.3 (b) (2)による なお、施工にあたっては、改修標準仕様書9.1.2除去工事共通事項を適用する。 ・ 囲い込み処理</p> <p>施工調査等 ※行う [9.1.1]</p> <p>専門工業者が工事に相応した技術を有することを証明する資料 [9.1.2.] 「吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術」 (民間開発建設技術の技術審査・証明事業認定規定) の証明書または、同等の技術を有することを証明する資料 (監指)</p> <p>石綿作業主任者 石綿障害予防規則に基づき、石綿作業主任者の選定を行う。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。</p> <p>除去作業 1. 施工業者より下記の科目について、アスベスト処理に関する衛生のための特別の教育を受けていること。(石綿則) イ 石綿等の有害性 ロ 石綿等の使用状況 ハ 石綿等の粉じんの飛散を抑制するための措置 ニ 保護具の使用状況 ホ 前各号に掲げるもののほか、石綿等のはく露防止に關し必要な事項 2. 以下の健康診断を受診し、診断の結果、肺機能に異常がない者とする。 イ 労働安全衛生法に基づく一般健康診断 (1年内に受診) ロ 石綿障害予防規則に基づく特殊健康診断 (6カ月以内に受診) ハ じん肺法に基づくじん肺健康診断 (3年以内に受診)</p>	材料名	定性分析	定量分析		・ (試料数:)	・ (試料数:)		・ (試料数:)	・ (試料数:)		・ (試料数:)	・ (試料数:)	適用 測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考	測定1	処理作業前	処理作業室	各2点～5点	(注)1	測定2	処理作業中	調査対象室外部の付近	計2点	大気	測定3	処理作業室内	各2点～5点	(注)1	測定4	処理作業中	負圧・除じん装置の排出吹出し口	出口吹出し風速1m/sec以下の位置 各2点	—	測定5	処理作業室外(敷地境界)	4方向各1点	—	測定6	処理作業後(シート養生中)	処理作業室内	各2点	—	測定7	処理作業後シート	処理作業室内	各2点～5点	(注)1	測定8	撤去後1週間以降	調査対象室外部の付近	計2点	大気	適用 測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考	測定1	処理作業前	処理作業室	各1点	—	測定2	処理作業中	調査対象室外部の付近	計1点	大気	測定3	処理作業室内	各1点	—	測定4	処理作業中	負圧・除じん装置の排出吹出し口	各1点	—	測定5	処理作業室外(敷地境界)	計1点	—	測定6	処理作業後(シート養生中)	処理作業室内	各1点	—	測定7	処理作業後シート	処理作業室内	各1点	—	測定8	撤去後1週間以降	調査対象室外部の付近	計2点	大気	名称	測定3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8	測定5	計数機器	位相差顕微鏡			メンブレンフィルタの直径	25mm		47mm	試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	10 l/min	試料の吸引時間	5min	120min	240min	試料の透明化	アセトン・トリアセトン法またはシュウ酸ジエチル法			計数条件	総アスベスト繊維数200本または視野数50視野			計数アスベスト	直径3µm未満、長さ5µm以上、長さど直径比3:1以上			定量限界	5.0 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l	材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲	覆層塗材RC		※図示 ○塗膜の劣化、剥離部分のみ	<p>施工計画書 施工計画書に下記事項についても記載する。(石綿則) 1. 作業の方法および手順 2. 石綿粉じんの飛散を防止し、また制御する方法 3. 労働者への石綿粉じんのばく露を防止する方法</p> <p>監9.1.2 (a) (ii) の①のその他必要な事項として下記の書類を添付する。 1. 石綿作業主任者が特定化学物質等作業主任者技術講習修了者の写し 2. 特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有することを証明する書類の写し 3. 委託する特別管理産業廃棄物処理業者の都道府県知事の許可書の写し</p> <p>官公署その他への手続き 1. 労働安全衛生法の工事計画届 (労働基準監督署) 2. 石綿障害予防規則の作業届 (労働基準監督署) 3. 大気汚染防止法の特定粉じん排出等作業実施届 (知事) 4. アスベスト排出等作業等完了届出書 (知事) - 県条例</p> <p>アスベストの除去処理 (密封処理) [9.1.3] 保管、表示 (廃掃法) アスベスト廃棄物は保管にあたっては、他の廃棄物と分別する。アスベスト廃棄物を収納する袋等に、個々にアスベスト廃棄物である旨を表示する。 除去したアスベスト含有吹付け材等の飛散防止措置 ※湿潤化 ・ 固形化 ・</p> <p>収集・運搬 (廃掃法) アスベスト廃棄物の収集・運搬にあたっては、他の廃棄物と混載してはならない。 廃棄物が飛散、流出しないように措置を講じる。</p> <p>注) アスベスト廃棄物とは吹付けアスベスト除去物、仮設養生プラスチックシート、HEPAフィルター、プラスチック系特殊作業服、靴カバー、室内掃除用スポンジ等を含む。</p> <p>最終処分 アスベスト廃棄物の最終処分は、埋立処分により行うこととし、都道府県知事に許可を受けた最終処分場で行う。</p> <p>アスベスト含有建材除去後の仕上げ ※図示 (耐火被覆および断熱材の除去後は、除去材料同等以上の性能の仕上材とする)</p> <p>処理を行うアスベスト保温材等の仕様等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>施工調査等 ※行う [9.1.1]</p> <p>アスベスト粉じん濃度測定 ※行わない ・ 行う</p> <p>石綿作業主任者 石綿障害予防規則に基づき、石綿作業主任者の選定を行う。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。</p> <p>特別管理産業廃棄物管理責任者 保温材等については、排出事業者は特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選任し管理させる。</p> <p>除去工法 ・ 破砕して除去 ・ 手ばらし 除去したアスベスト含有保温材等の材等の飛散防止措置 ※湿潤化 ・ 固形化 ・</p> <p>官公署その他への手続き 1. 労働安全衛生法の工事計画届 (労働基準監督署) 2. 石綿障害予防規則の作業届 (労働基準監督署) 3. 大気汚染防止法の特定粉じん排出等作業実施届 (知事) 4. アスベスト排出等作業等完了届出書 (知事) - 県条例</p> <p>除去物および汚染物等の処分等 保温材等については、改修標準仕様書9.1.3(c)による。</p> <p>アスベスト含有建材除去後の仕上げ ※図示</p> <p>処理を行うアスベスト成形板の仕様等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>施工調査等 ※行う [9.1.1]</p> <p>アスベスト粉じん濃度測定 ※行わない ・ 行う</p> <p>石綿作業主任者 石綿障害予防規則に基づき、石綿作業主任者の選定を行う。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。</p> <p>表示・掲示 改修標準仕様書9.1.2(f)による表示・掲示を行う。</p> <p>アスベスト含有建材除去後の仕上げ ※図示</p> <p>断熱材 [9.3.2] 断熱材の種類 ・ 断熱材の厚さ (mm) ・ 施工箇所 ・ 図示 ・ ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 外装材 種類 () 防火性能 ()</p> <p>既存外壁の措置 既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし 下地の清掃 ・ 行う ・ 行わない [9.3.3]</p>	材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲			※図示	材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲			※図示	<p>6. ガラス改修工事 複層ガラス [9.4.2] 材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに複層ガラスの厚さ ・ 建具表による 断熱性能による区分 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6 日射取得性、日射遮蔽性による区分 ・ G ・ S 乾燥気体の種類 ・ 空気 ・ アルゴン</p> <p>7. 断熱材 G ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂またはメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・ ・ 断熱材打込み工法 [9.5.2] 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 ・ 厚さ (mm) ・ 施工場所 ・ ・ 断熱材現場発泡工法 [9.5.3] 断熱材の種類 ・ A種I ・ A種IIH ・ 吹付け厚さ (mm) ・ 25 ・ 30 施工箇所 ※窓回り等の断熱材補修部分、ルーフトレイン回りの床版上等、部分的に後張りとしなければならぬ箇所 ・ 図示 ・ 現場発泡断熱材 (品質・性能)、(試験方法) ※建築材料等品質性能表による ・ 断熱材後張り工法 [9.5.4] 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 ・ 厚さ (mm) ・ 断熱材にせつこうボード等を張り付けたパネル (材質 ・ 厚さ ・ mm)</p> <p>8. 屋上緑化改修工事 G 植栽基盤および材料 [9.6.1~4] ・ 屋上緑化軽量システム 芝および地被類の樹種ならびに種類等 ※ 図示 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※ 図示 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の (1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 かん水装置 ・ 設ける (別途機械設備工事による) ・ 設けない 既存保護層の撤去 ・ 行う 新植芝及び地被類の枯補償 ※引き渡し日から1年 ・ [9.6.4] 9. 既設舗装の撤去および再利用 [9.7.2] 既設舗装の撤去 ・ 行う 既設舗装の再利用 ・ 行う 10. 路床 [9.7.3] (22.2.2~3) 凍上抑制層 ・ 適用する ※適用しない 厚さ (mm) ・ 150 ・ 材料 ・ フィルター層 ・ 適用する ※適用しない 厚さ (mm) 車道部 ※150 ・ 歩道部 ※50 ・ 材料 ・ 路床安定処理 ・ 適用する (方法 ・) ※適用しない 砂の粒度試験 ・ 行う ※行わない 盛土用材料 [表9.7.1] ・ A種 ※B種 G 関 ・ C種 G 関 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土 G 関 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・ 行う ※行わない [9.7.3] (9.2.5) 現場CBR試験 ・ 行う ※行わない 路床の締固め試験 ・ 行う ※行わない 11. 路盤 [9.7.4] (22.3.2~3) 舗装の種類 路盤の厚さ (cm) 路盤材料 ・ アスファルト舗装 ・ 10 ・ 15 ・ 25 ・ 35 10 ※再生クラッシャーラン G ・ インターロッキングブロック舗装 ・ 10 ・ 15 ・ 25 10 ・ クラッシャーラン ・ コンクリート平板舗装 10 透水性アスファルト舗装に用いる路盤材料は透水性の高いものとする 12. アスファルト舗装 (22.4.2) (表22.4.6) 基層 (車道部) ・ 適用する ※適用しない (22.4.2) 材料 アスファルト ・ ストレートアスファルト ※再生アスファルト G (22.4.3) 骨材 ・ 砕石 ※アスファルトコンクリート再生骨材 G 加熱アスファルト混合物等の種類 (22.4.4) (表22.4.6) 表層 ※密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13) 基層 ※粗粒度アスファルト混合物 (20) シールコート ・ 適用する ※適用しない (22.4.5) アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※行わない (22.4.6) (22.9.2~22.9.3) 舗装の種類 種類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 備考 ・ コンクリート平板舗装 ※普通平板 (N) ※300角 ※60 目地材 ・ カラー平板 (C) ・ ※砂 ・ 洗出平板 (W) ・ ・ モルタル ・ 掘石平板 (S) ・ ・ インターロッキングブロック舗装 ※普通ブロック 車道部 ※ 80 色彩および表面加工 ・ 透水性ブロック 歩道部 ※ 60 ※標準品 ・ 植生ブロック ※80 ・ 100 ジオテキスタイル ※適用しない ・ 適用する (22.9.3) 品質 () 14. 舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・</p>	<p>工事名称 兼定島公舎屋根・外壁改修工事 (C棟・F棟)</p> <p>図面名称 図面番号 A-05</p> <p>設計 建築改修工事特記仕様書 (その5) 縮尺</p>
	材料名	定性分析	定量分析																																																																																																																																																									
	・ (試料数:)	・ (試料数:)																																																																																																																																																										
	・ (試料数:)	・ (試料数:)																																																																																																																																																										
	・ (試料数:)	・ (試料数:)																																																																																																																																																										
適用 測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考																																																																																																																																																								
測定1	処理作業前	処理作業室	各2点～5点	(注)1																																																																																																																																																								
測定2	処理作業中	調査対象室外部の付近	計2点	大気																																																																																																																																																								
測定3		処理作業室内	各2点～5点	(注)1																																																																																																																																																								
測定4	処理作業中	負圧・除じん装置の排出吹出し口	出口吹出し風速1m/sec以下の位置 各2点	—																																																																																																																																																								
測定5		処理作業室外(敷地境界)	4方向各1点	—																																																																																																																																																								
測定6	処理作業後(シート養生中)	処理作業室内	各2点	—																																																																																																																																																								
測定7	処理作業後シート	処理作業室内	各2点～5点	(注)1																																																																																																																																																								
測定8	撤去後1週間以降	調査対象室外部の付近	計2点	大気																																																																																																																																																								
適用 測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考																																																																																																																																																								
測定1	処理作業前	処理作業室	各1点	—																																																																																																																																																								
測定2	処理作業中	調査対象室外部の付近	計1点	大気																																																																																																																																																								
測定3		処理作業室内	各1点	—																																																																																																																																																								
測定4	処理作業中	負圧・除じん装置の排出吹出し口	各1点	—																																																																																																																																																								
測定5		処理作業室外(敷地境界)	計1点	—																																																																																																																																																								
測定6	処理作業後(シート養生中)	処理作業室内	各1点	—																																																																																																																																																								
測定7	処理作業後シート	処理作業室内	各1点	—																																																																																																																																																								
測定8	撤去後1週間以降	調査対象室外部の付近	計2点	大気																																																																																																																																																								
名称	測定3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8	測定5																																																																																																																																																									
計数機器	位相差顕微鏡																																																																																																																																																											
メンブレンフィルタの直径	25mm		47mm																																																																																																																																																									
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	10 l/min																																																																																																																																																									
試料の吸引時間	5min	120min	240min																																																																																																																																																									
試料の透明化	アセトン・トリアセトン法またはシュウ酸ジエチル法																																																																																																																																																											
計数条件	総アスベスト繊維数200本または視野数50視野																																																																																																																																																											
計数アスベスト	直径3µm未満、長さ5µm以上、長さど直径比3:1以上																																																																																																																																																											
定量限界	5.0 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l																																																																																																																																																									
材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲																																																																																																																																																										
覆層塗材RC		※図示 ○塗膜の劣化、剥離部分のみ																																																																																																																																																										
材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲																																																																																																																																																										
		※図示																																																																																																																																																										
材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲																																																																																																																																																										
		※図示																																																																																																																																																										
<p>年度別 R 5 5年 6月</p> <p>第一分組 第二分組 第三分組 審査</p> <p>公立大学法人 福井県立大学</p>	<p>株式会社 木村建築事務所</p> <p>1級建築士事務所 福井県 (株) 115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村進一</p>																																																																																																																																																											



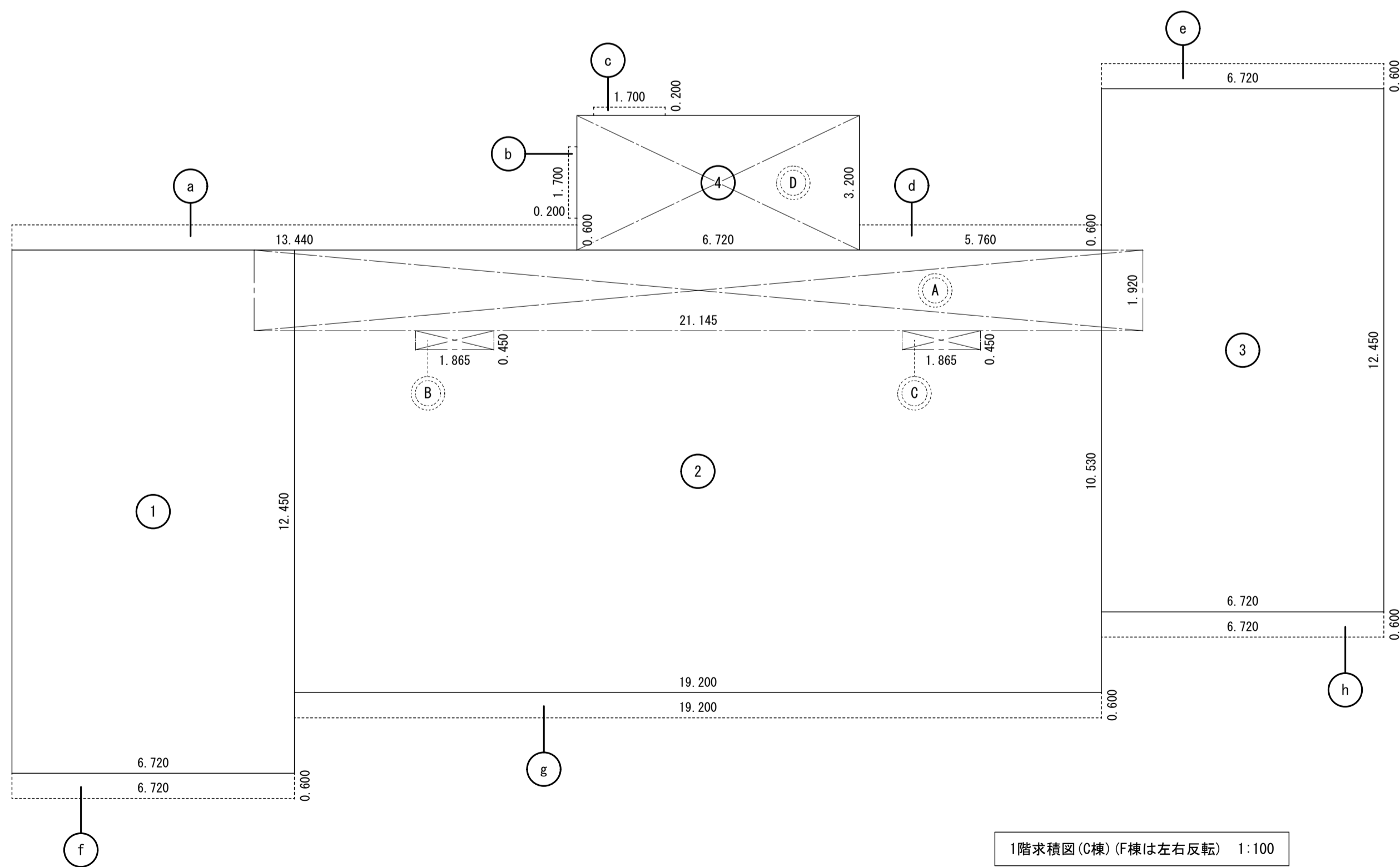
年度別 R 5		公立大学法人 福井県立大学				K M R 株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県 (L) 115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一	工事名称 兼定島公舎屋根・外壁改修工事(C棟・F棟) 図面名称 敷地案内図、配置図		図面番号 A-06 縮尺 1:200	
5年 6月	第一分区分類	第二分区分類	第三分区分類	審査	設計					



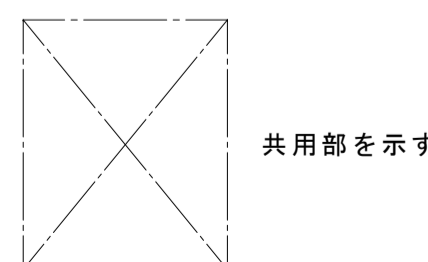
PH求積図(C棟)(F棟は左右反転) 1:100



2階求積図(C棟)(F棟は左右反転) 1:100



1階求積図(C棟)(F棟は左右反転) 1:100



記号	計算式(m)	面積(m ²)
1	6.720 × 12.450	83.664000
2	19.200 × 10.530	202.176000
3	6.720 × 12.450	83.664000
4	6.720 × 3.200	21.504000
a	13.440 × 0.600	8.064000
b	0.200 × 1.700	0.340000
c	1.700 × 0.200	0.340000
d	5.760 × 0.600	3.456000
e	6.720 × 0.600	4.032000
f	6.720 × 0.600	4.032000
g	19.200 × 0.600	11.520000
h	6.720 × 0.600	4.032000
計		426.824000
計(小数第2位未満切り捨て)		426.82

記号	計算式(m)	面積(m ²)
1階		391.000000
1階 共用部		-63.780000
2階		387.000000
2階 共用部		-59.780000
PH		17.500000
PH 共用部		-17.500000
計		654.440000
計(小数第2位未満切り捨て)		654.44

記号	計算式(m)	面積(m ²)
1	6.720 × 12.450	83.664000
2	19.200 × 10.530	202.176000
3	6.720 × 12.450	83.664000
4	6.720 × 3.200	21.504000
計		391.008000
計(小数第2位未満切り捨て)		391.00

記号	計算式(m)	面積(m ²)
A	21.145 × 1.920	40.598400
B	1.865 × 0.450	0.839250
C	1.865 × 0.450	0.839250
D	6.720 × 3.200	21.504000
計		63.780900
計(小数第2位未満切り捨て)		63.78

記号	計算式(m)	面積(m ²)
1	6.720 × 12.450	83.664000
2	19.200 × 10.530	202.176000
3	6.720 × 12.450	83.664000
5	5.470 × 3.200	17.504000
計		387.008000
計(小数第2位未満切り捨て)		387.00

記号	計算式(m)	面積(m ²)
A	21.145 × 1.920	40.598400
B	1.865 × 0.450	0.839250
C	1.865 × 0.450	0.839250
E	5.470 × 3.200	17.504000
計		59.780900
計(小数第2位未満切り捨て)		59.78

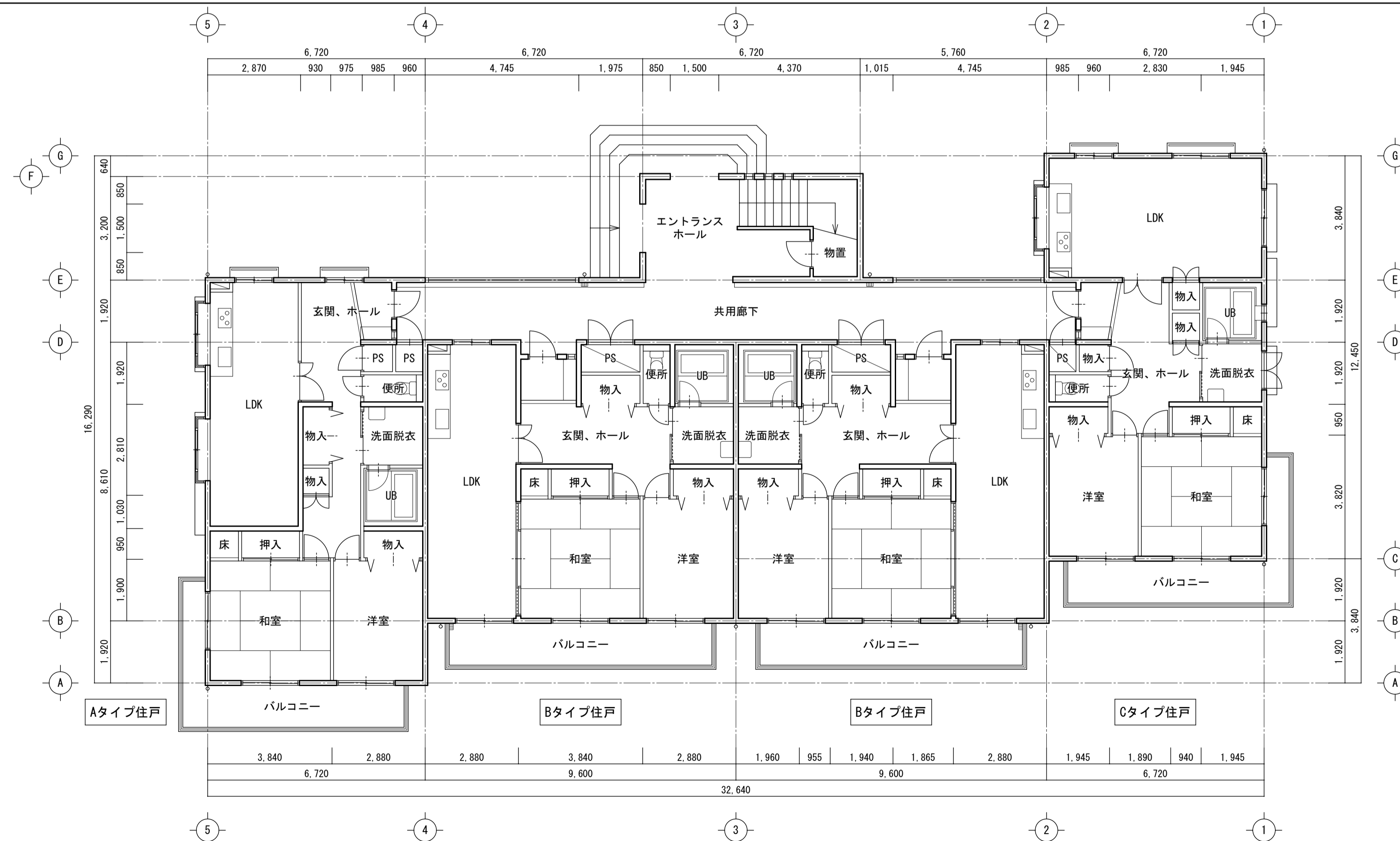
記号	計算式(m)	面積(m ²)
5	5.470 × 3.200	17.504000
計		17.504000
計(小数第2位未満切り捨て)		17.50

記号	計算式(m)	面積(m ²)
E	5.470 × 3.200	17.504000
計		17.504000
計(小数第2位未満切り捨て)		17.50

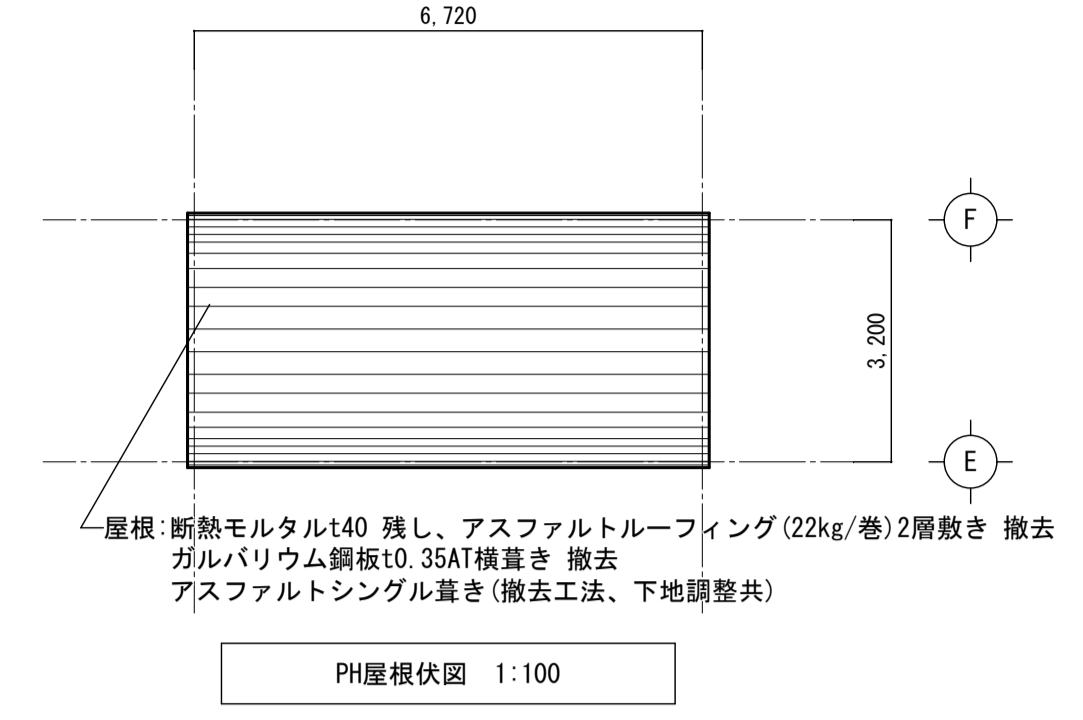
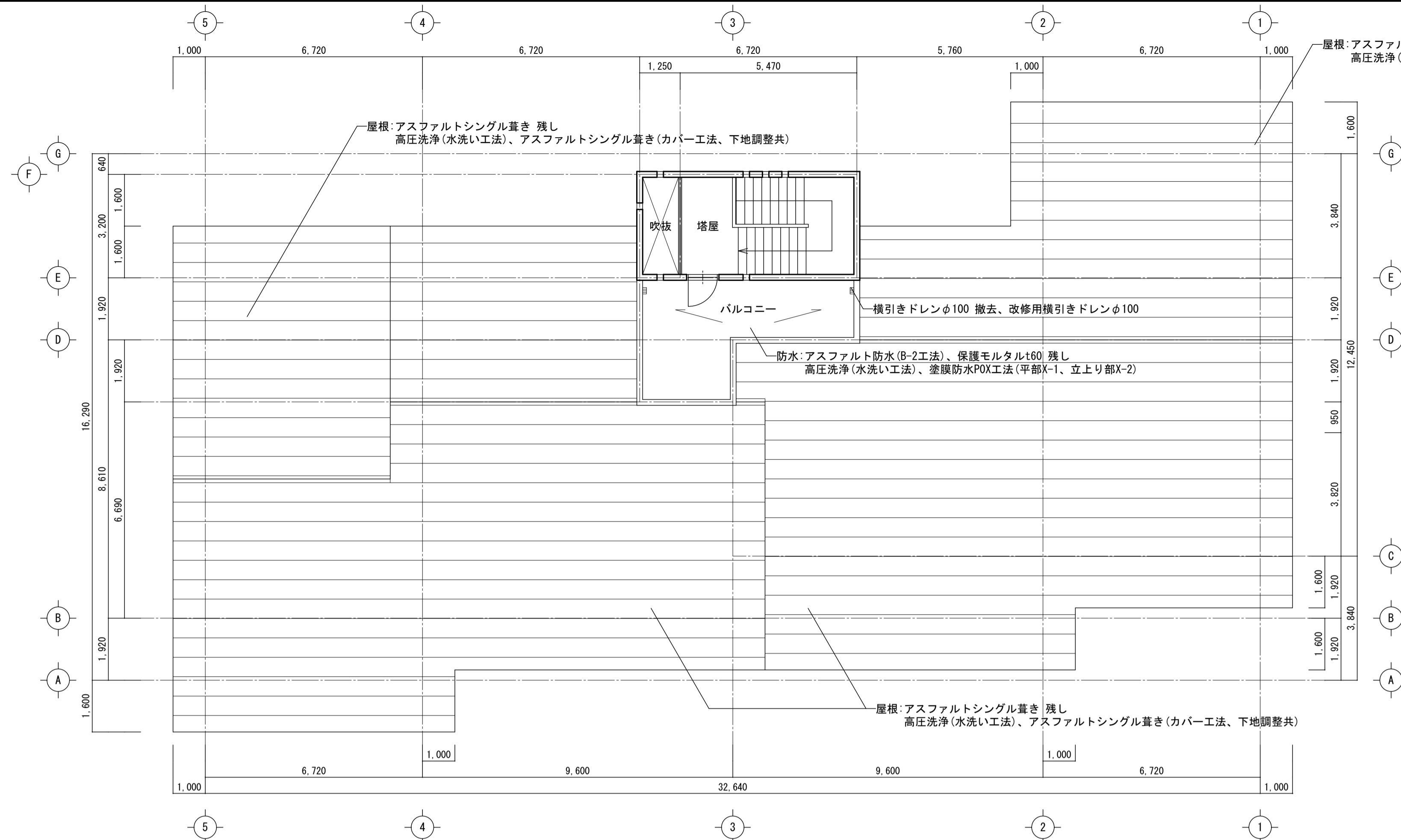
外部仕上表 (C棟、F棟共通)

屋根	改修前	コンクリート下地、アスファルトシングル葺き 残し ステンレス製ケラバ包みt0.3、ステンレス製軒水切りt0.3、ステンレス製壁取合い水切りt0.3 撤去 アルミ製笠木 取外し(再使用する)	外部建具	改修前	アルミサッシ 既存のまま 建具廻りシーリング 撤去
	改修後	高圧洗浄(水洗い工法)、アスファルトシングル葺き(カバー工法、下地調整共) ステンレス製ケラバ包みt0.3、ステンレス製軒水切りt0.3、ステンレス製壁取合い水切りt0.3 アルミ製笠木 再取付け		改修後	建具廻りシーリング(MS-2)15×10打替え
PH屋根 エントランスホール庇	改修前	断熱モルタルt40 残し、アスファルトルーフィング(22kg/巻)2層敷き 撤去、ガルバリウム鋼板t0.35AT横葺き 撤去	換気フード (ウェザーカバー)	改修前	ステンレス製深型フードφ100、150用 撤去 格子ふた 撤去(C棟のみ)
	改修後	アスファルトシングル葺き(撤去工法、下地調整共) ケラバ包み(ガルバリウム鋼板t0.5)、軒先金物、軒水切り(ガルバリウム鋼板t0.5)、壁取合い水切り(ガルバリウム鋼板t0.5)		改修後	ステンレス製深型フードφ100、150用(防虫網付き) ※延焼のおそれのある部分のφ150用:防火ダンパー付き
PHバルコニー防水	改修前	平部:コンクリート下地、アスファルト防水(B-2工法)、保護モルタルt60 残し、伸縮目地 撤去 立上り部:アスファルト防水(B-2工法) 撤去、保護モルタルt60 撤去	ルーフトレン	改修前	共用廊下:横引きドレンφ50 既存のまま ベランダ:横引きドレンφ50、中継ドレンφ75 既存のまま PHバルコニー:横引きドレンφ100 撤去
	改修後	平部:伸縮目地撤去跡補修(シール材充填、モルタル補修等)、高圧洗浄(水洗い工法)、塗膜防水POX工法(X-1) 立上り部:塗膜防水POX工法(X-2)、端部金物押え、アルミ水切り		改修後	PHバルコニー:改修用横引きドレンφ100
外壁、軒裏 (共用廊下、階段共) (ベランダ共)	改修前	コンクリート打放し下地、複層塗材RE(アスベスト含有建材)※塗膜の劣化、剥離部分のみ撤去 庇上:防水モルタル塗り 共用廊下天井:LGS下地、ロックウール吸音板t12 既存のまま	共用廊下 (床、笠木)	改修前	床:防水モルタル塗り 既存のまま 笠木付きアルミ製手すり:W225、H250 取外し(再使用する)
	改修後	高圧洗浄(水洗い工法)、下地調整(C-1)、複層塗材E 庇:高圧洗浄(水洗い工法)のみ		改修後	笠木付きアルミ製手すり:W225、H250 再取付け
と い	改修前	軒樋:角型(ステンレス製吊り金物#600) 既存のまま 縦樋:VP管φ100(ステンレス製掴み金物#1000) 既存のまま	その他外装	改修前	アルミ製物干し金物、避難ハッチ(ベランダ) 既存のまま アルミ製手すり:H250 既存のまま
	改修後	縦樋:SOP塗替え		改修後	-

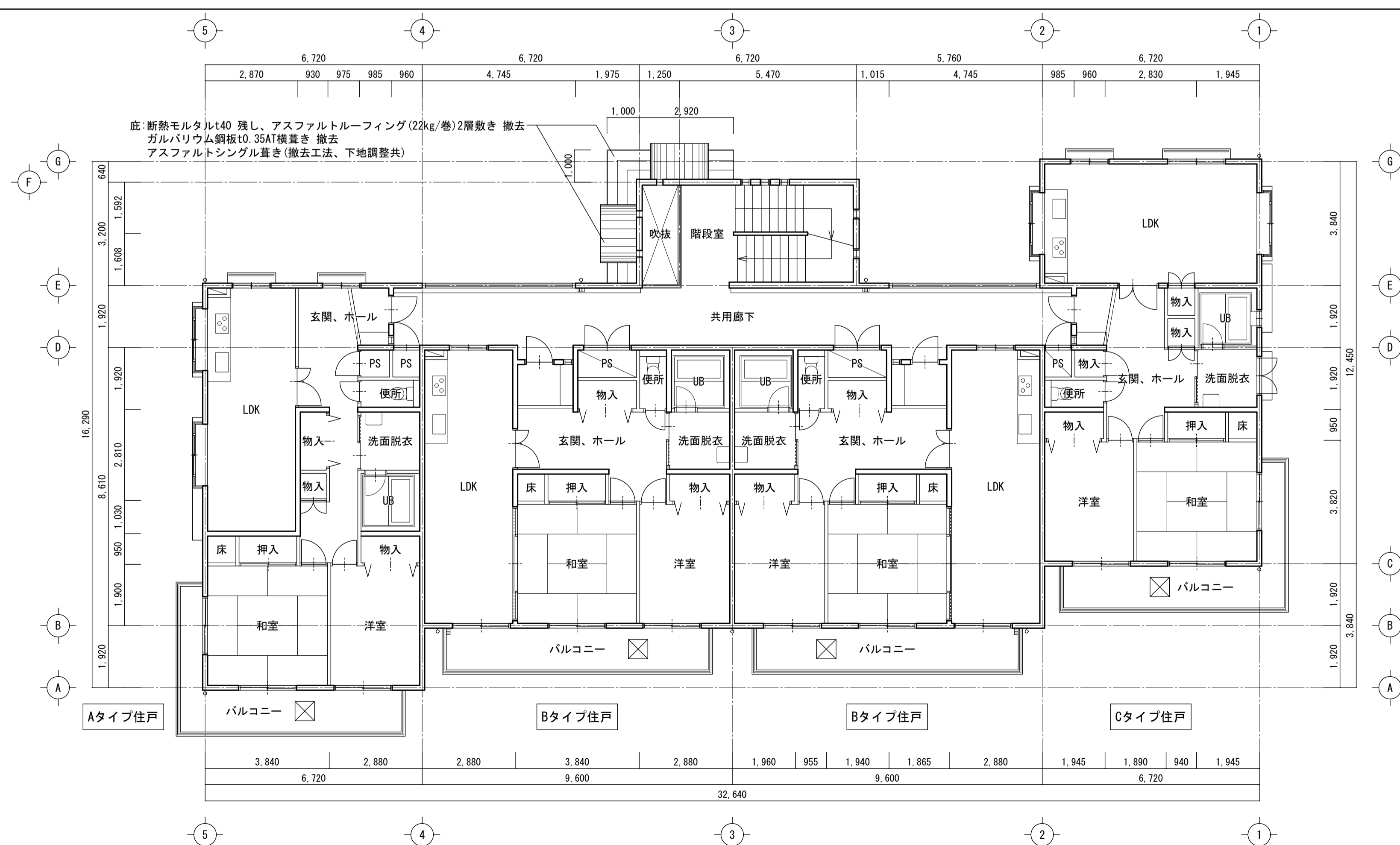
凡 例	特 記 事 項	
SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	1. 設計図面に記載の外壁補修数量は参考値であり、外壁調査により数量を確定する。
LGS	軽量鉄骨壁(天井)	2. 外壁調査の結果により防水モルタル(または断熱モルタル)に浮きが確認された場合、協議の上、モルタル塗り撤去、塗替えとする。
		3. 既存エアコンスリーブ(キャップ共)の破損、欠落部は撤去、新設する。
		4. 改修にあたり外壁面の露出配管、空調室外機等は、脱着なしで適切に養生すること。 ただし改修に支障がある場合は、協議の上脱着、または盛替えを行うこと。
		5. アスファルトシングル葺き、および塗膜防水は責任施工とし、保証年限は10年とする。
		6. 脱着部材については、屋根改修、及び外壁改修に伴い隣室となる部分を対象とする。 そのまま改修可能な場合、脱着の必要はないものとする。
		7. 壁面の鳥や入居者所有の配管等は、受注者の責において取り計らうこと。



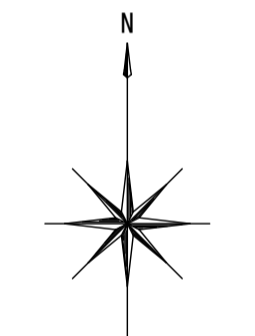
1階平面図(C棟) 1:100



PH平面図、屋根伏図(C棟) 1:100



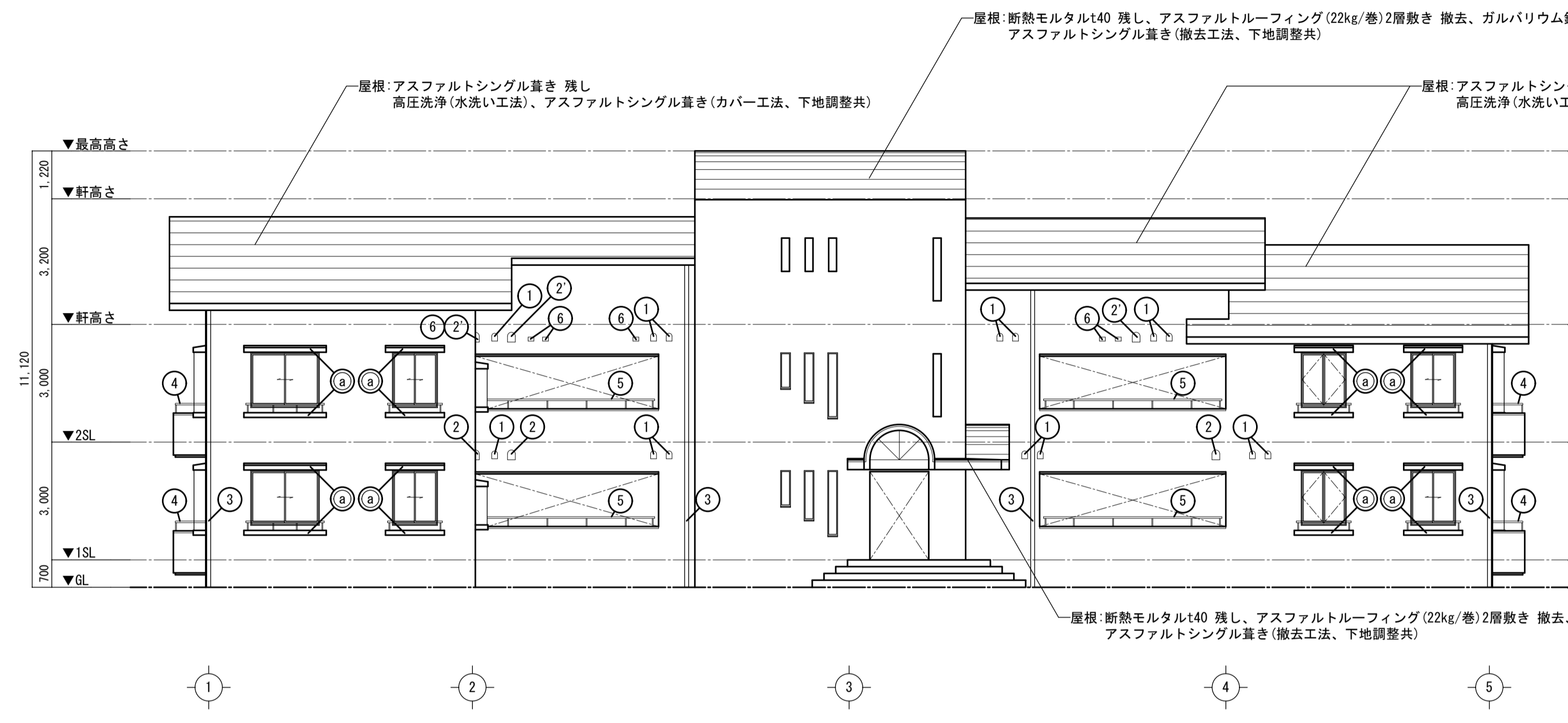
2階平面図(C棟) 1:100



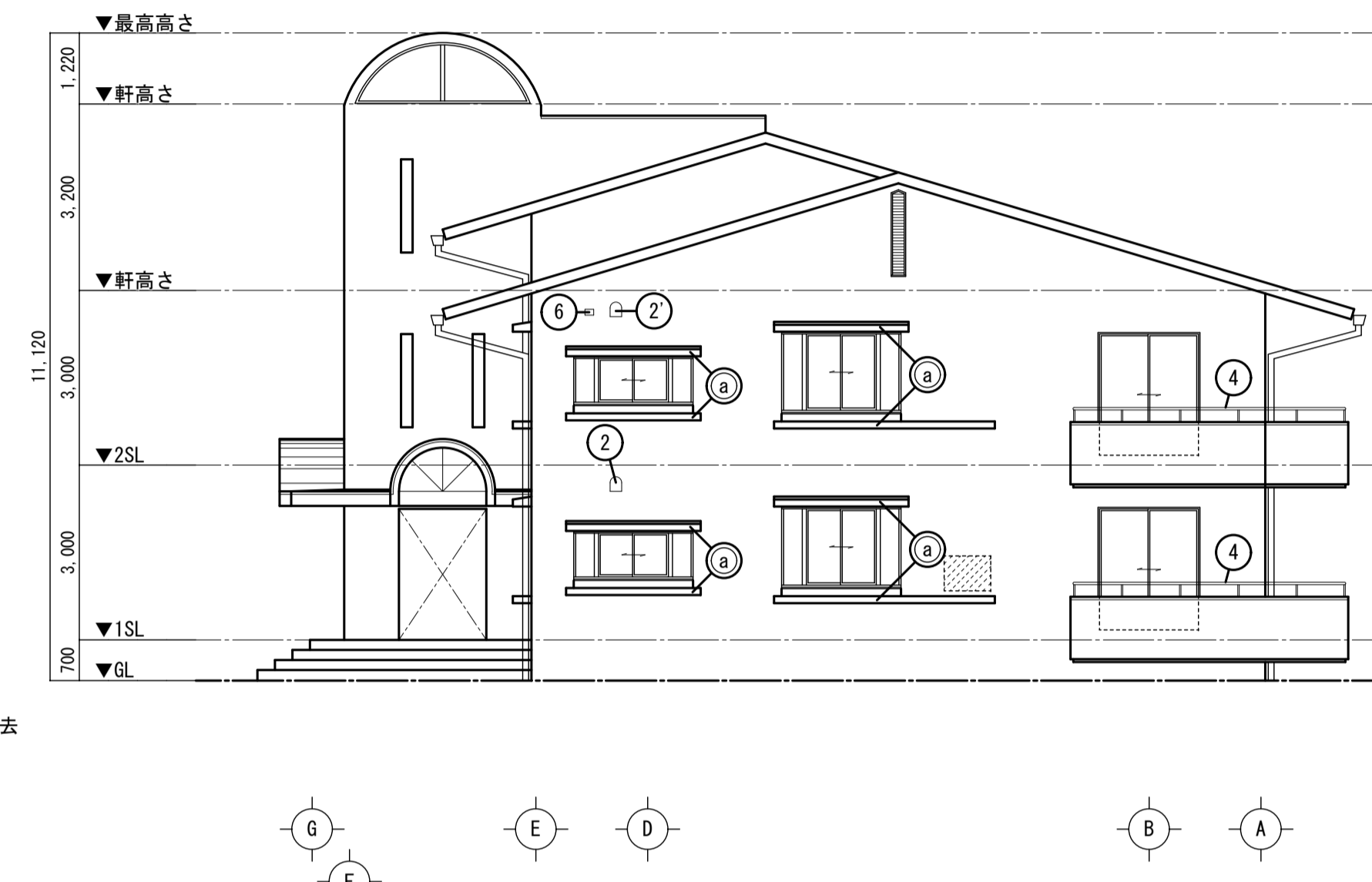
外壁改修仕様	改修割合 (参考値)
外壁全体:コンクリート打放し下地、複層塗材RE(アスベスト含有建材) 残し ※ただし、塗膜の劣化、剥離部分のみ撤去 高圧洗浄(水洗い工法)、下地調整(0-1)、複層塗材E	100% (※1%)
応上:防水モルタル塗り 残し 高圧洗浄(水洗い工法)のみ	
建具廻りシーリング(MS-2)15×10打替え(換気ガラリ共)	
補修 ひび割れ補修(幅0.2~1.0mm)自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 (幅1.0mm以上)Uカットシール充填工法	20% 2%
欠損部補修:エポキシ樹脂モルタル充填工法	1%

※外壁改修範囲(軒裏を含む)について、共用廊下、階段室、ベランダ部分も対象とする。

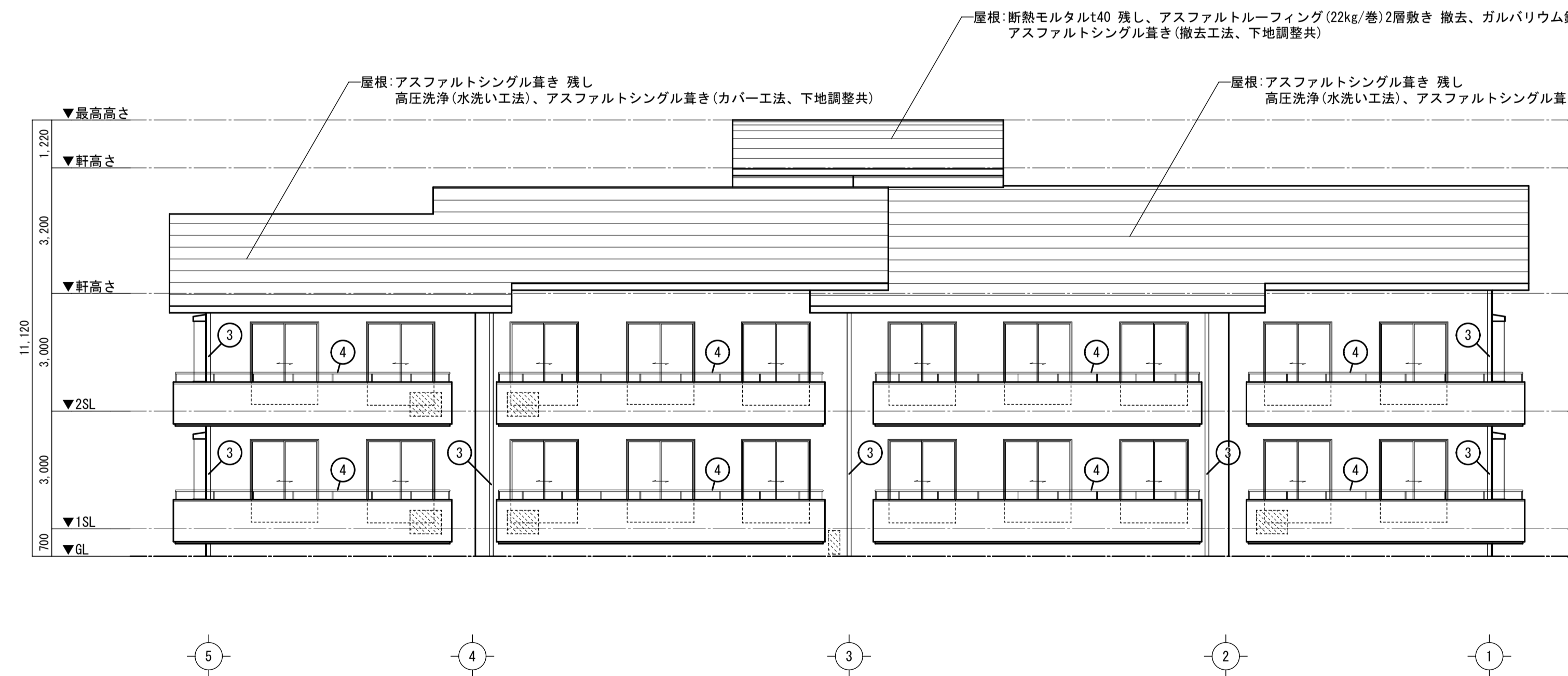
外壁仕上げ範囲凡例	
①	ステンレス製深型フードφ100用 撤去 ステンレス製深型フードφ100用(防虫網付き)
②	ステンレス製深型フードφ150用 撤去 ステンレス製深型フードφ150用(防虫網付き)
③	ステンレス製深型フードφ150用(防虫網付き) ステンレス製深型フードφ150用(防火ダンパー、防虫網付き)
④	縦樋:VP管φ100 既存のまま、SOP塗替え
⑤	笠木付きアルミ製手すり:W200、H250 取外し、再取付け
⑥	格子ふた 撤去 ステンレス製深型フードφ100用(防虫網付き)
⑦	既存庇上:防水モルタル塗り部分を示す (その他既存外壁:コンクリート打放し下地、複層塗材RE)
⑧	空調室外機 既存のまま (改修に支障がある場合は協議し脱着、または盛替え)
その他外装 既存のまま	軒裏、アルミ製物干し金物、避難ハッチ(ベランダ) アルミ製手すり:H250



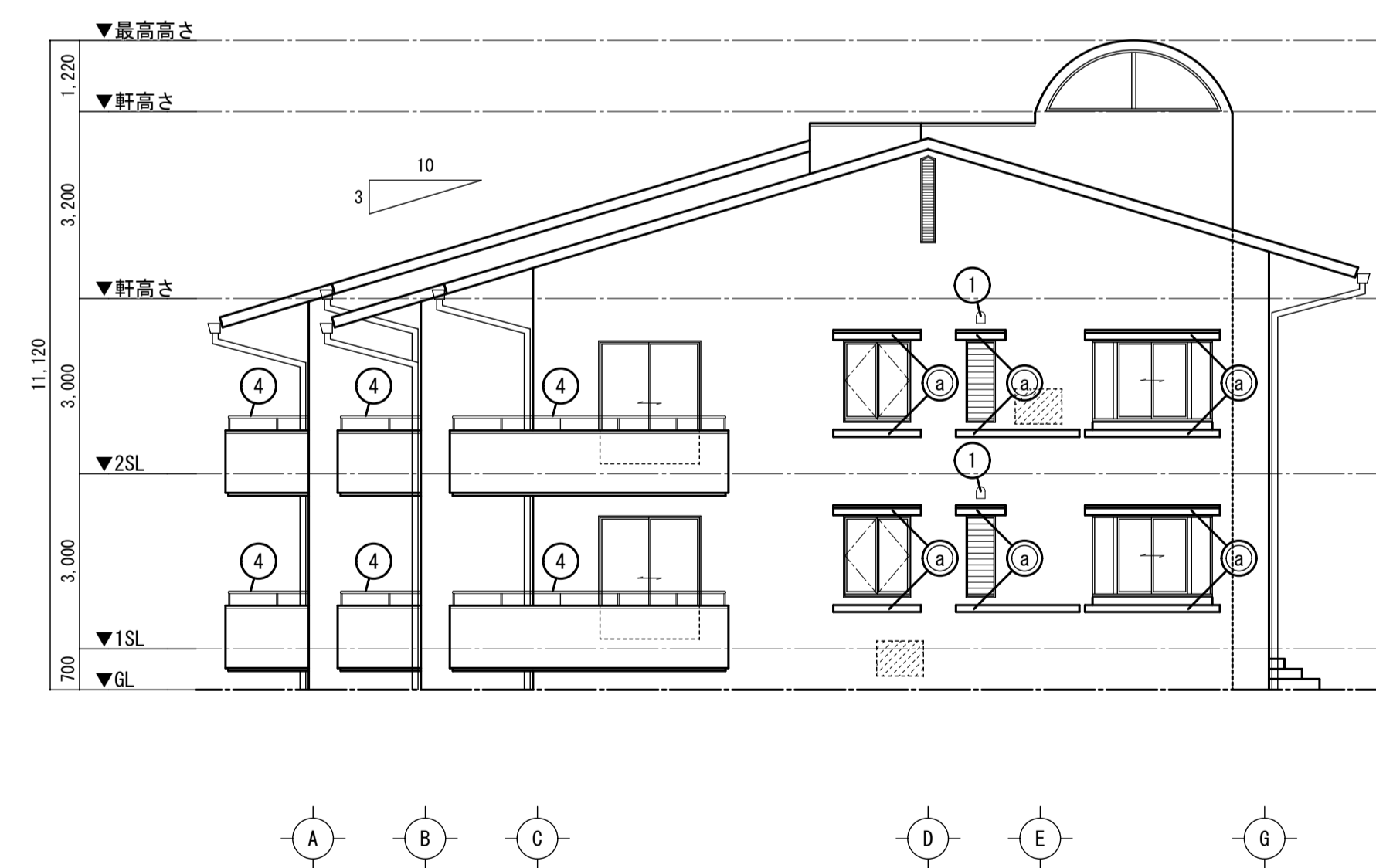
北立面図(C棟) 1:100



西立面図(C棟) 1:100



南立面図(C棟) 1:100

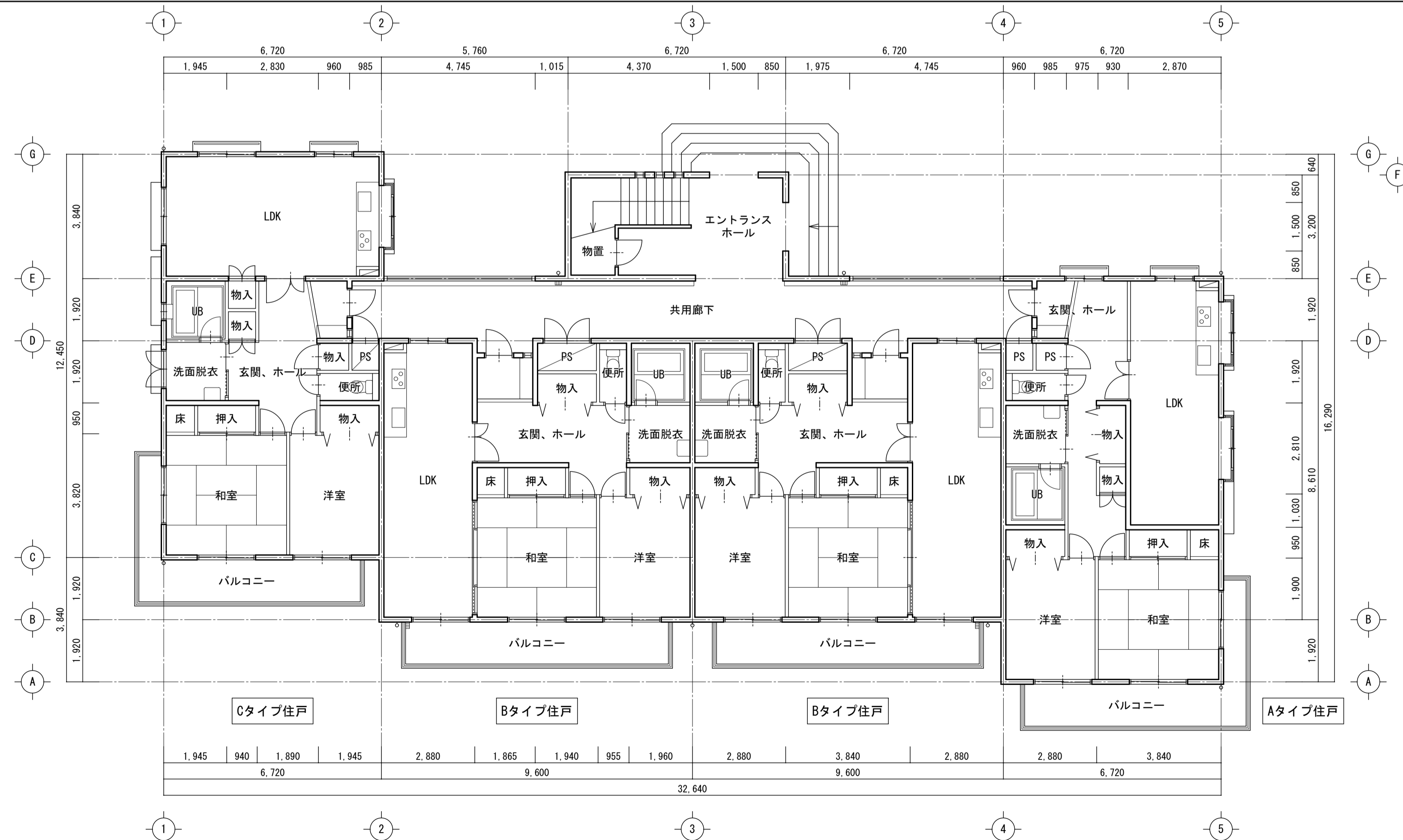


東立面図(C棟) 1:100

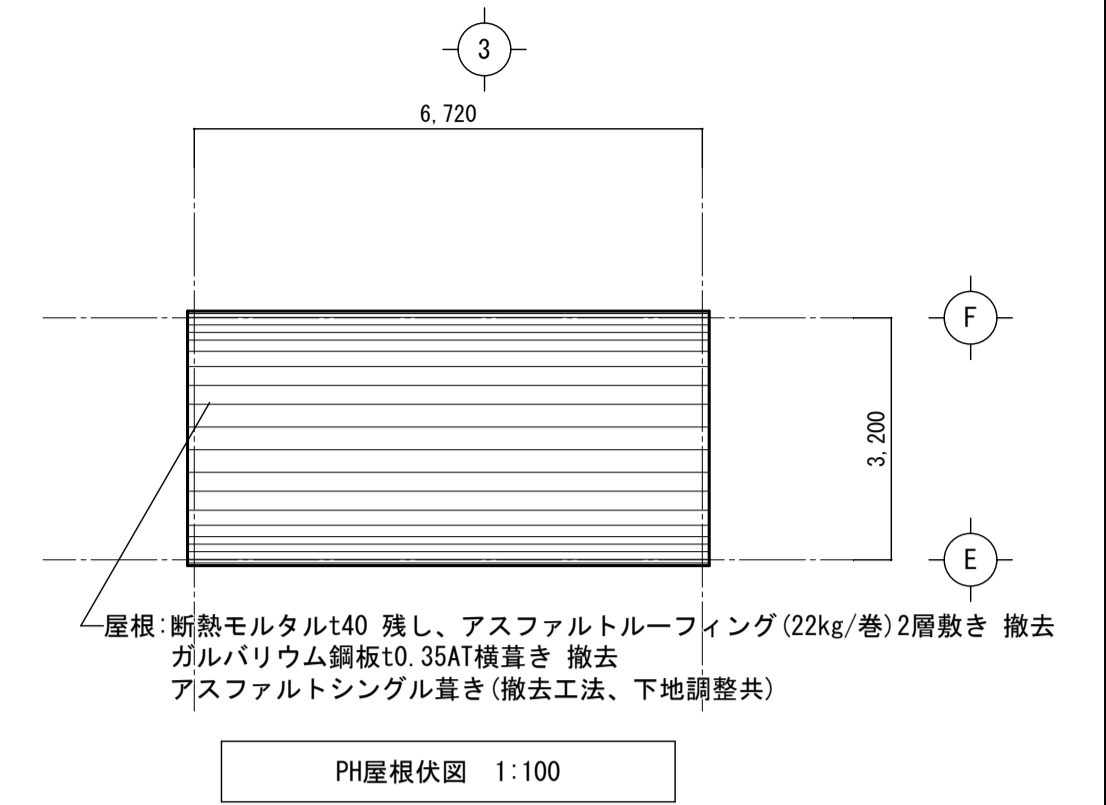
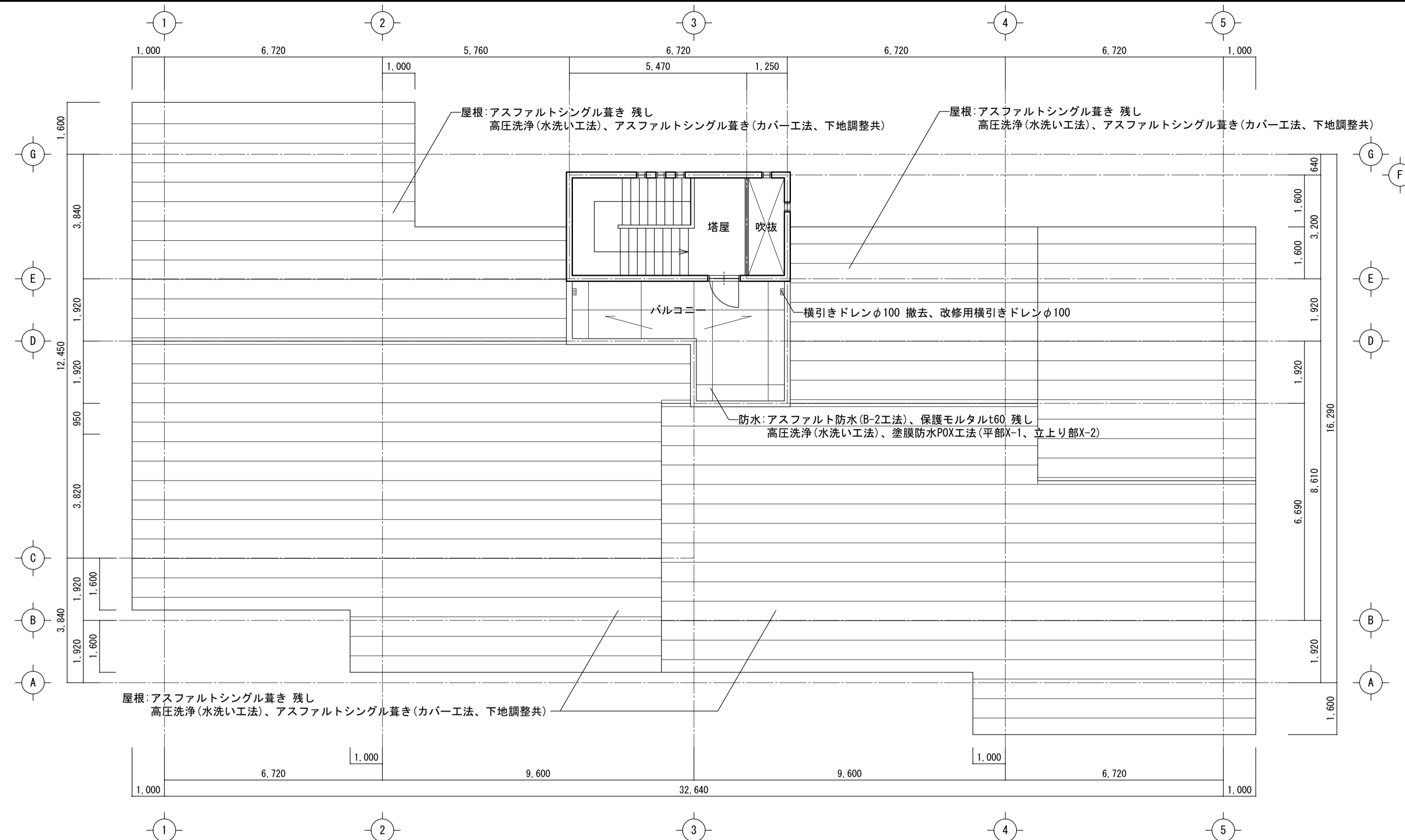
外部仕上表 (C棟、F棟共通)

屋根	改修前	コンクリート下地、アスファルトシングル葺き 残し ステンレス製ケラバ包みt0.3、ステンレス製軒水切りt0.3、ステンレス製壁取合い水切りt0.3 撤去 アルミ製笠木 取外し(再使用する)	外部建具	改修前	アルミサッシ 既存のまま 建具廻りシーリング 撤去
	改修後	高圧洗浄(水洗い工法)、アスファルトシングル葺き(カバー工法、下地調整共) ステンレス製ケラバ包みt0.3、ステンレス製軒水切りt0.3、ステンレス製壁取合い水切りt0.3 アルミ製笠木 再取付け		改修後	建具廻りシーリング(MS-2)15×10打替え
PH屋根 エントランスホール庇	改修前	断熱モルタルt40 残し、アスファルトルーフィング(22kg/巻)2層敷き 撤去、ガルバリウム鋼板t0.35AT横葺き 撤去	換気フード (ウェザーカバー)	改修前	ステンレス製深型フードφ100、150用 撤去 格子ふた 撤去(C棟のみ)
	改修後	アスファルトシングル葺き(撤去工法、下地調整共) ケラバ包み(ガルバリウム鋼板t0.5)、軒先金物、軒水切り(ガルバリウム鋼板t0.5)、壁取合い水切り(ガルバリウム鋼板t0.5)		改修後	ステンレス製深型フードφ100、150用(防虫網付き) ※延焼のおそれのある部分のφ150用:防火ダンパー付き
PHバルコニー防水	改修前	平部:コンクリート下地、アスファルト防水(B-2工法)、保護モルタルt60 残し、伸縮目地 撤去 立上り部:アスファルト防水(B-2工法) 撤去、保護モルタルt60 撤去	ルーフトレン	改修前	共用廊下:横引きドレンφ50 既存のまま ベランダ:横引きドレンφ50、中継ドレンφ75 既存のまま PHバルコニー:横引きドレンφ100 撤去
	改修後	平部:伸縮目地撤去跡補修(シール材充填、モルタル補修等)、高圧洗浄(水洗い工法)、塗膜防水POX工法(X-1) 立上り部:塗膜防水POX工法(X-2)、端部金物押え、アルミ水切り		改修後	PHバルコニー:改修用横引きドレンφ100
外壁、軒裏 (共用廊下、階段共) (ベランダ共)	改修前	コンクリート打放し下地、複層塗材RE(アスベスト含有建材)※塗膜の劣化、剥離部分のみ撤去 庇上:防水モルタル塗り 共用廊下天井:LGS下地、ロックウール吸音板t12 既存のまま	共用廊下 (床、笠木)	改修前	床:防水モルタル塗り 既存のまま 笠木付きアルミ製手すり:W225、H250 取外し(再使用する)
	改修後	高圧洗浄(水洗い工法)、下地調整(C-1)、複層塗材E 庇:高圧洗浄(水洗い工法)のみ		改修後	笠木付きアルミ製手すり:W225、H250 再取付け
と い	改修前	軒樋:角型(ステンレス製吊り金物#600) 既存のまま 縦樋:VP管φ100(ステンレス製掘り込み金物#1000) 既存のまま	その他外装	改修前	アルミ製物干し金物、避難ハッチ(ベランダ) 既存のまま アルミ製手すり:H250 既存のまま
	改修後	縦樋:SOP塗替え		改修後	-

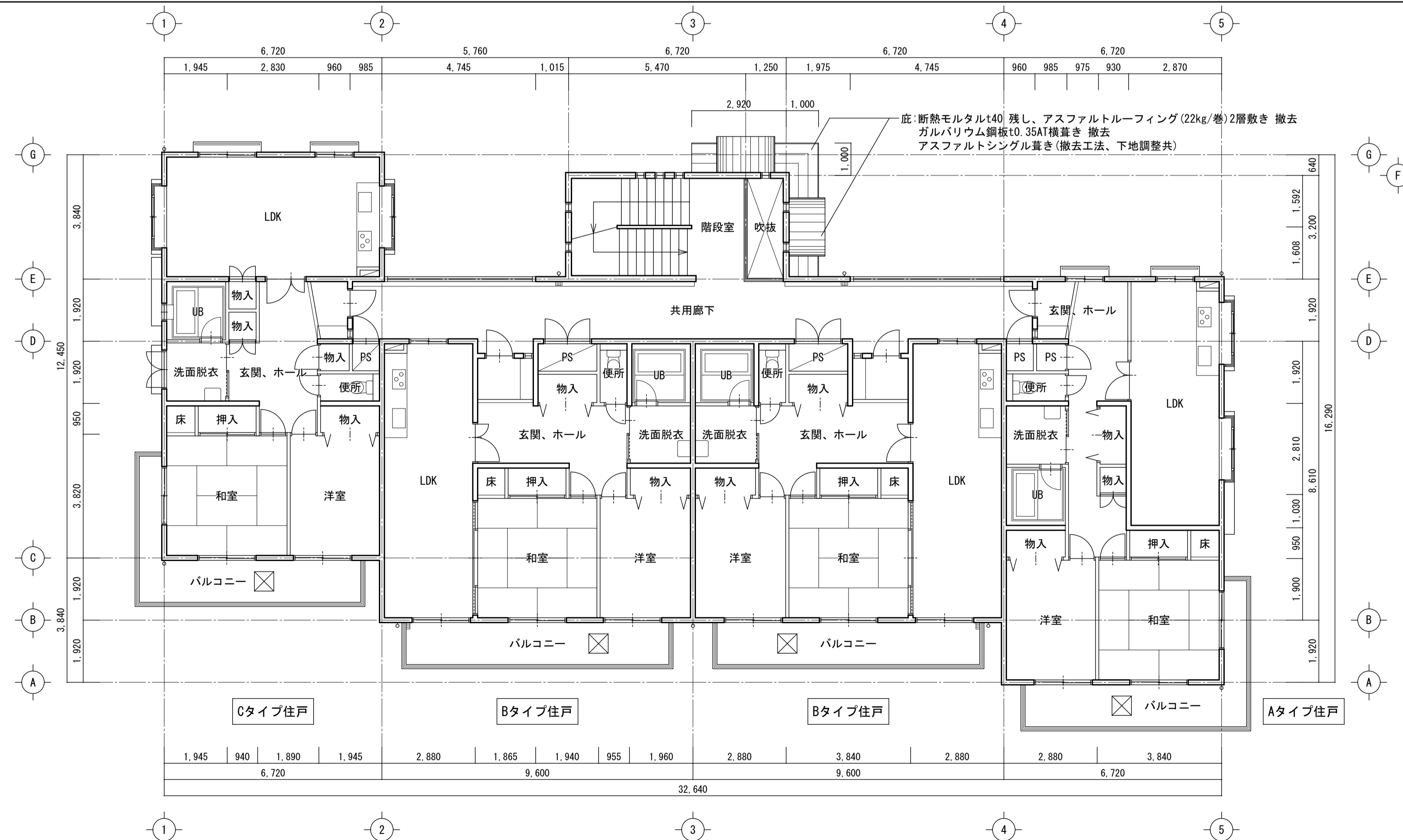
凡 例	特 記 事 項	
SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	1. 設計図面に記載の外壁補修数量は参考値であり、外壁調査により数量を確定する。
LGS	軽量鉄骨壁(天井)	2. 外壁調査の結果により防水モルタル(または断熱モルタル)に浮きが確認された場合、協議の上、モルタル塗り撤去、塗替えとする。
		3. 既存エアコンスリーブ(キャップ共)の破損、欠落部は撤去、新設する。
		4. 改修にあたり外壁面の露出配管、空調室外機等は、脱着なしで適切に養生すること。 ただし改修に支障がある場合は、協議の上脱着、または盛替えを行うこと。
		5. アスファルトシングル葺き、および塗膜防水は責任施工とし、保証年限は10年とする。
		6. 脱着部材については、屋根改修、及び外壁改修に伴い障害となる部分を対象とする。 そのまま改修可能な場合、脱着の必要はないものとする。
		7. 壁面の鳥や入居者所有の配管等は、受注者の責において取り計らうこと。



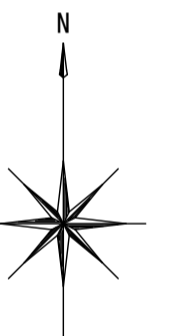
1階平面図(F棟) 1:100



PH平面図、屋根伏図(F棟) 1:100



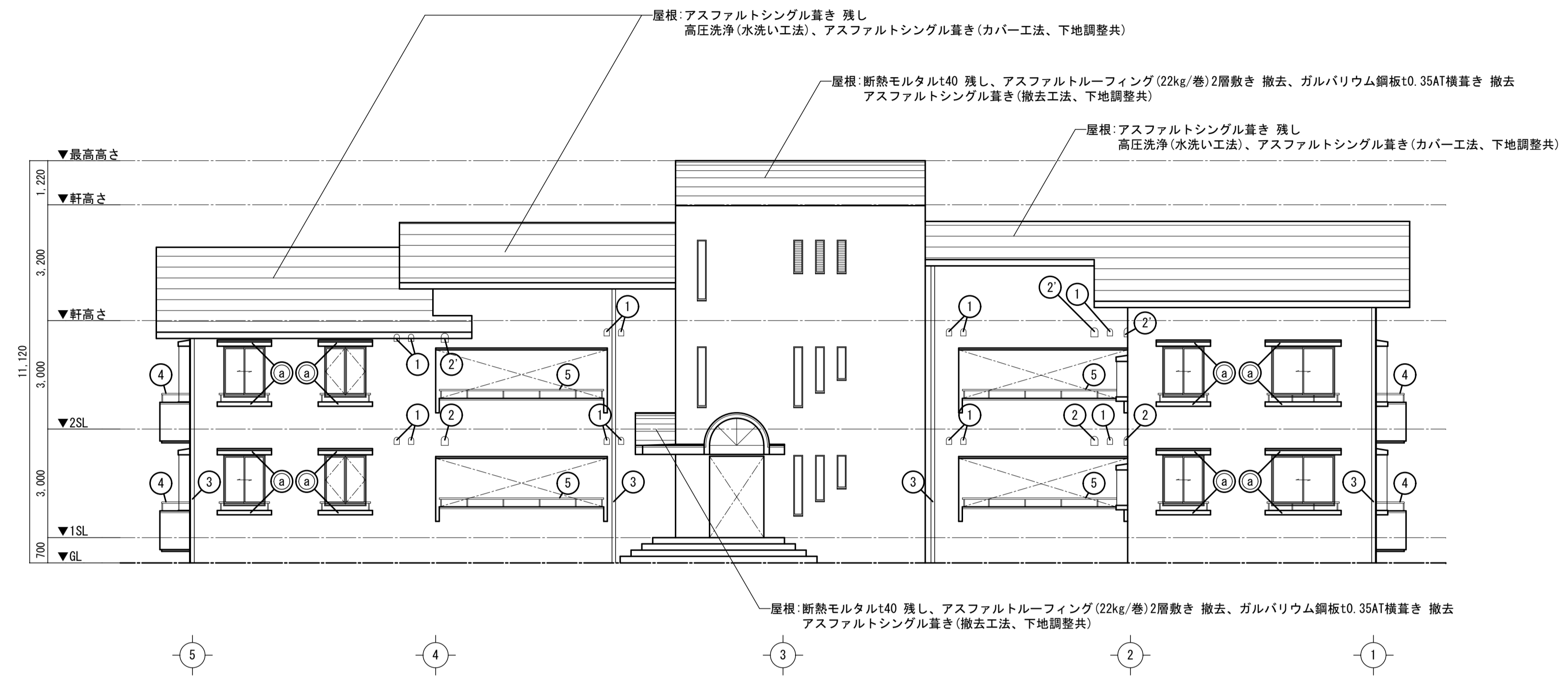
2階平面図(F棟) 1:100



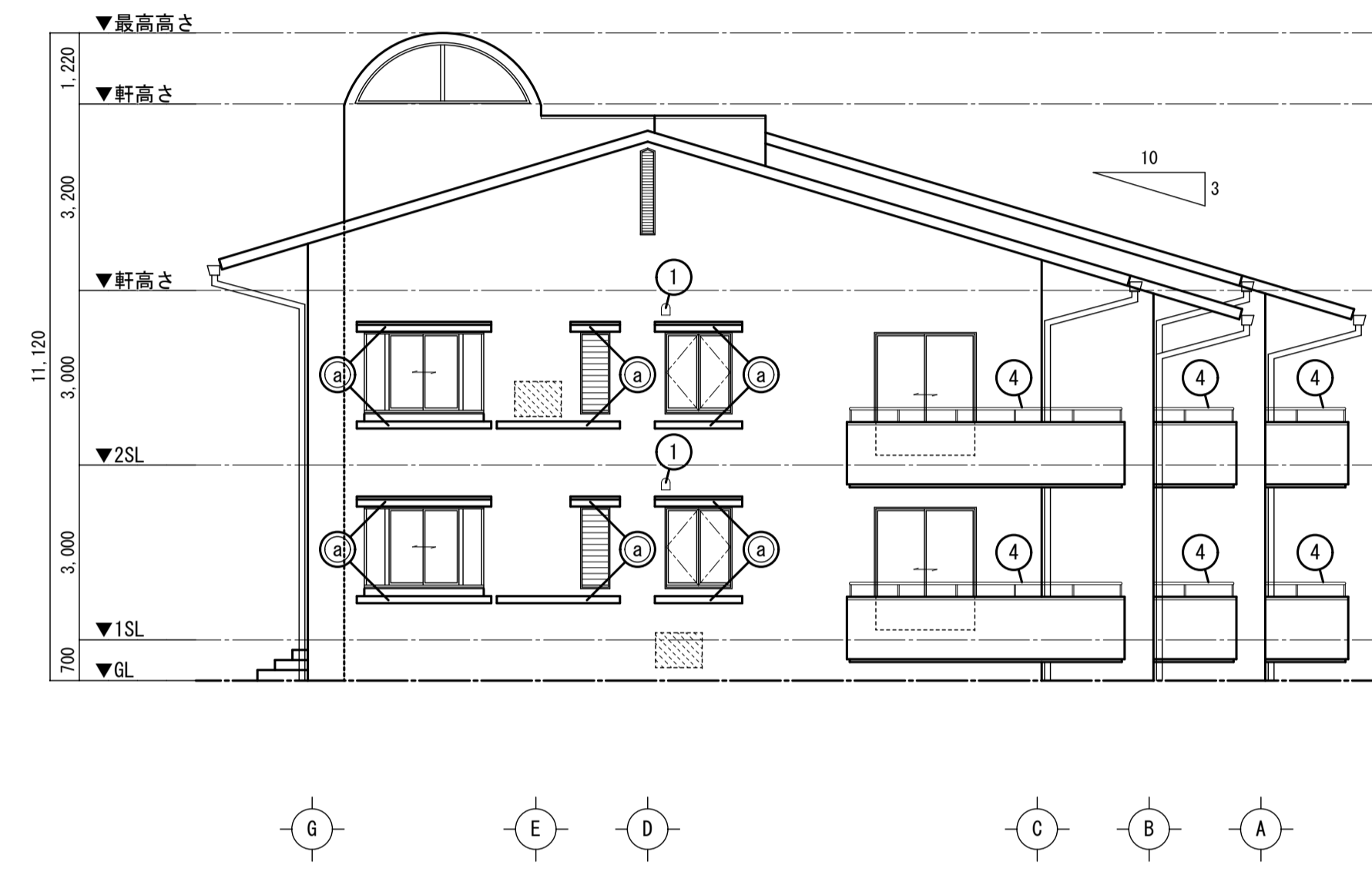
外壁改修仕様	改修割合 (参考値)
外壁全体:コンクリート打放し下地、複層塗材RE(アスベスト含有建材) 残し ※ただし、塗膜の劣化、剥離部分のみ撤去 高圧洗浄(水洗い工法)、下地調整(0-1)、複層塗材E	100% (※ 2%)
応上:防水モルタル塗り 残し 高圧洗浄(水洗い工法)のみ	
建具廻りシーリング(MS-2)15×10打替え (換気ガラリ共)	
補修 ひび割れ補修:(幅0.2~1.0mm)自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 (幅1.0mm以上)Uカットシール充填工法	30% 2%
欠損部補修:エポキシ樹脂モルタル充填工法	1%

※外壁改修範囲(軒裏を含む)について、共用廊下、階段室、ベランダ部分も対象とする。

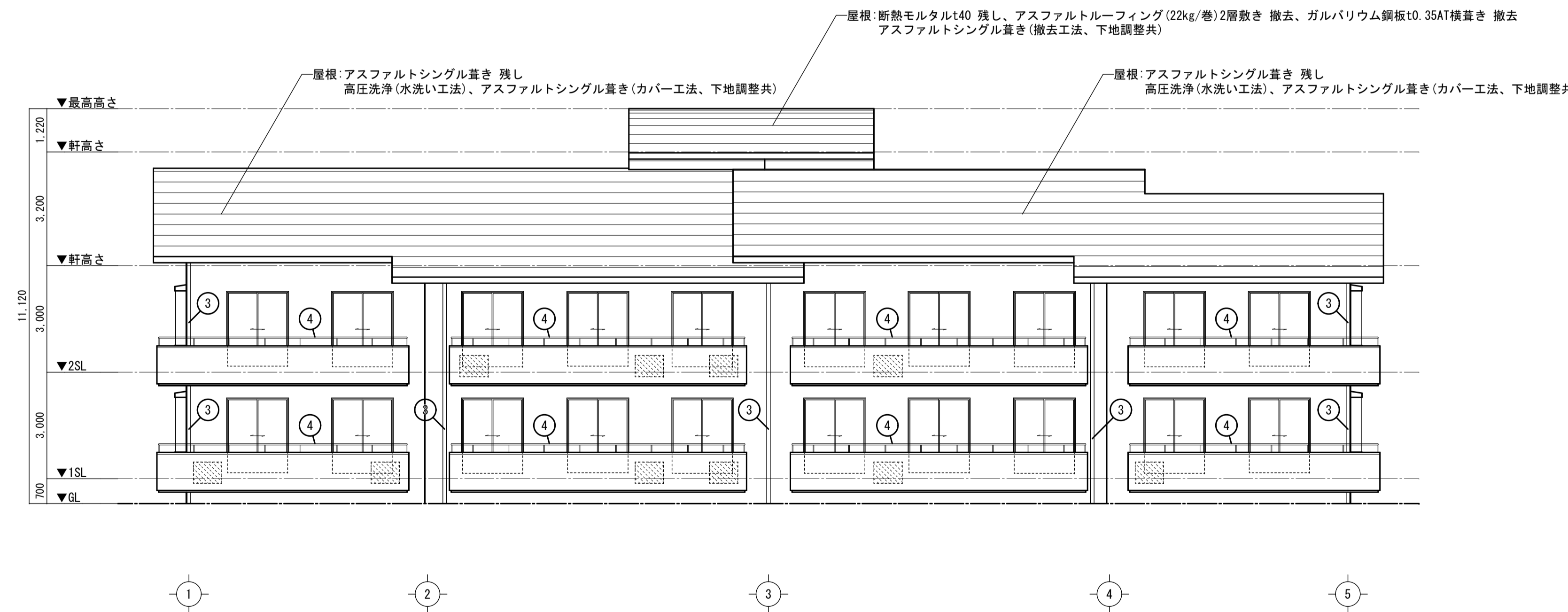
外壁仕上げ範囲凡例	
①	ステンレス製深型フードφ100用 撤去 ステンレス製深型フードφ100用(防虫網付き)
②	ステンレス製深型フードφ150用 撤去 ステンレス製深型フードφ150用(防虫網付き)
③	ステンレス製深型フードφ150用(防虫網付き) ステンレス製深型フードφ150用(防火ダンパー、防虫網付き)
④	堅種:VP管φ100 既存のまま、SOP塗替え
⑤	笠木付きアルミ製手すり:W200、H250 取外し、再取付け
⑥	笠木付きアルミ製手すり:W225、H250 取外し、再取付け
ⓐ	既存庇上:防水モルタル塗り部分を示す (その他既存外壁:コンクリート打放し下地、複層塗材RE)
ⓑ	空調室外機 既存のまま (改修に支障がある場合は協議し脱着、または盛替え)
ⓓ	軒樋、アルミ製物干し金物、避難ハッチ(ベランダ)
その他外装	既存のまま
	アルミ製手すり:H250



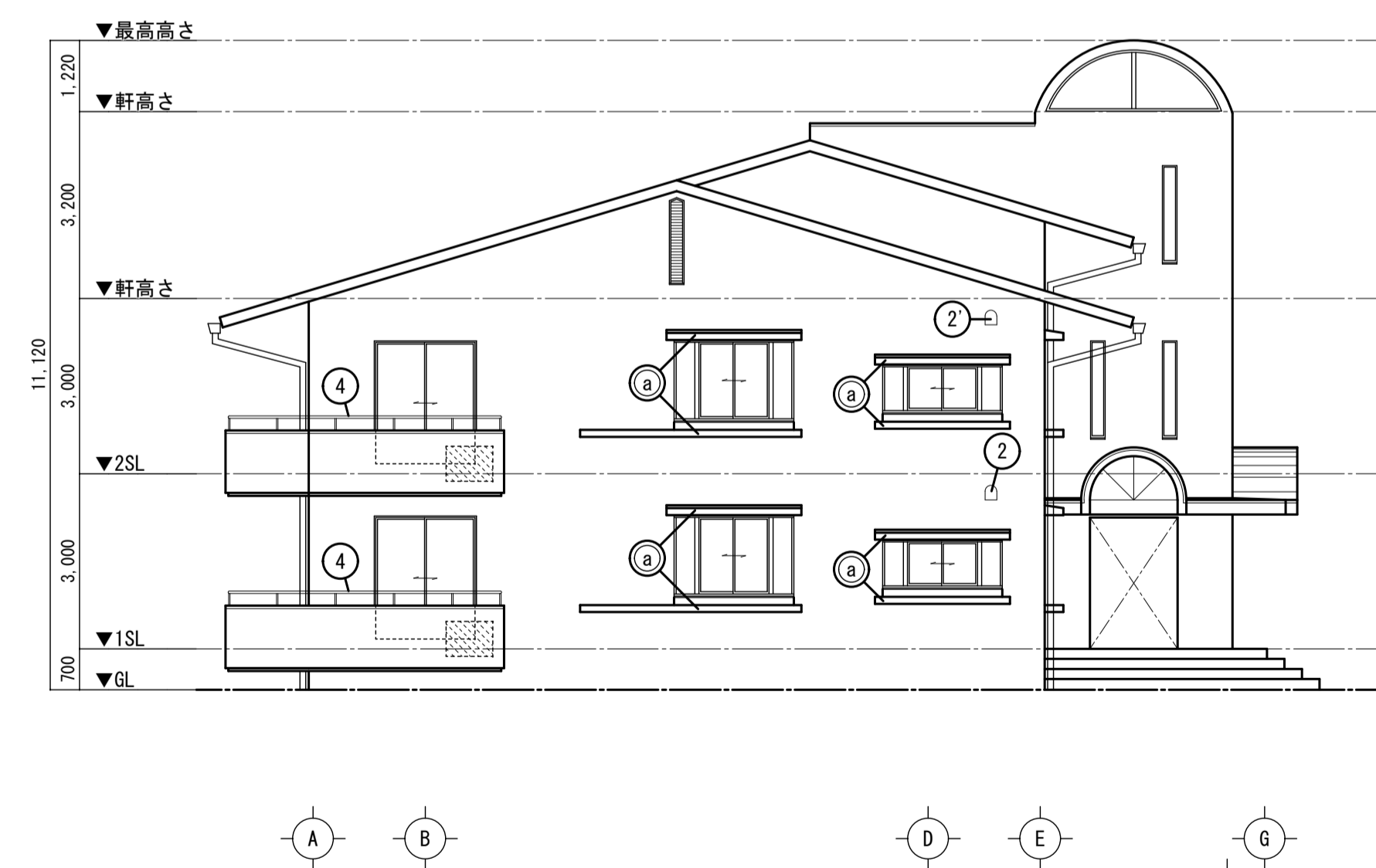
北立面図(F棟) 1:100



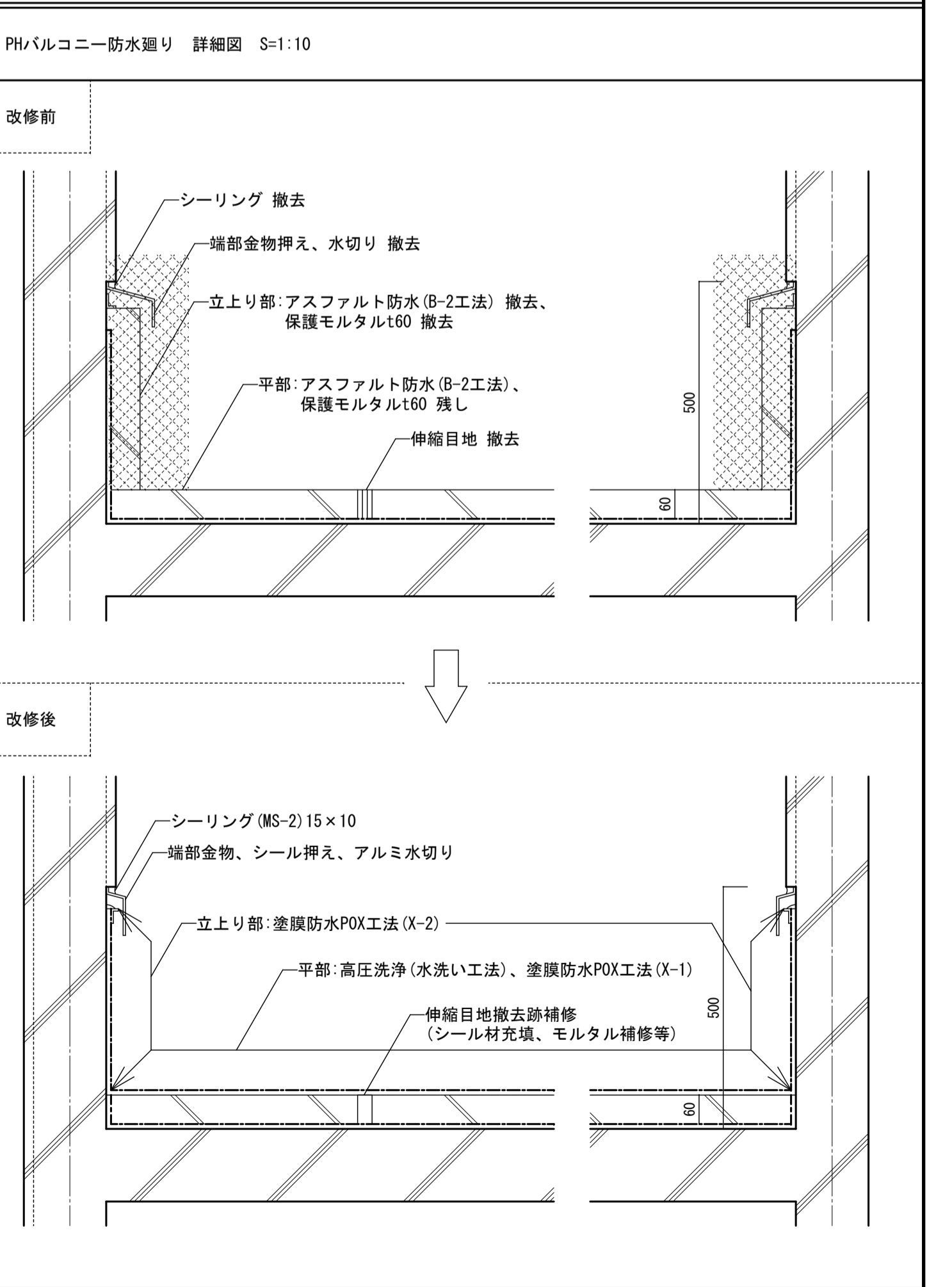
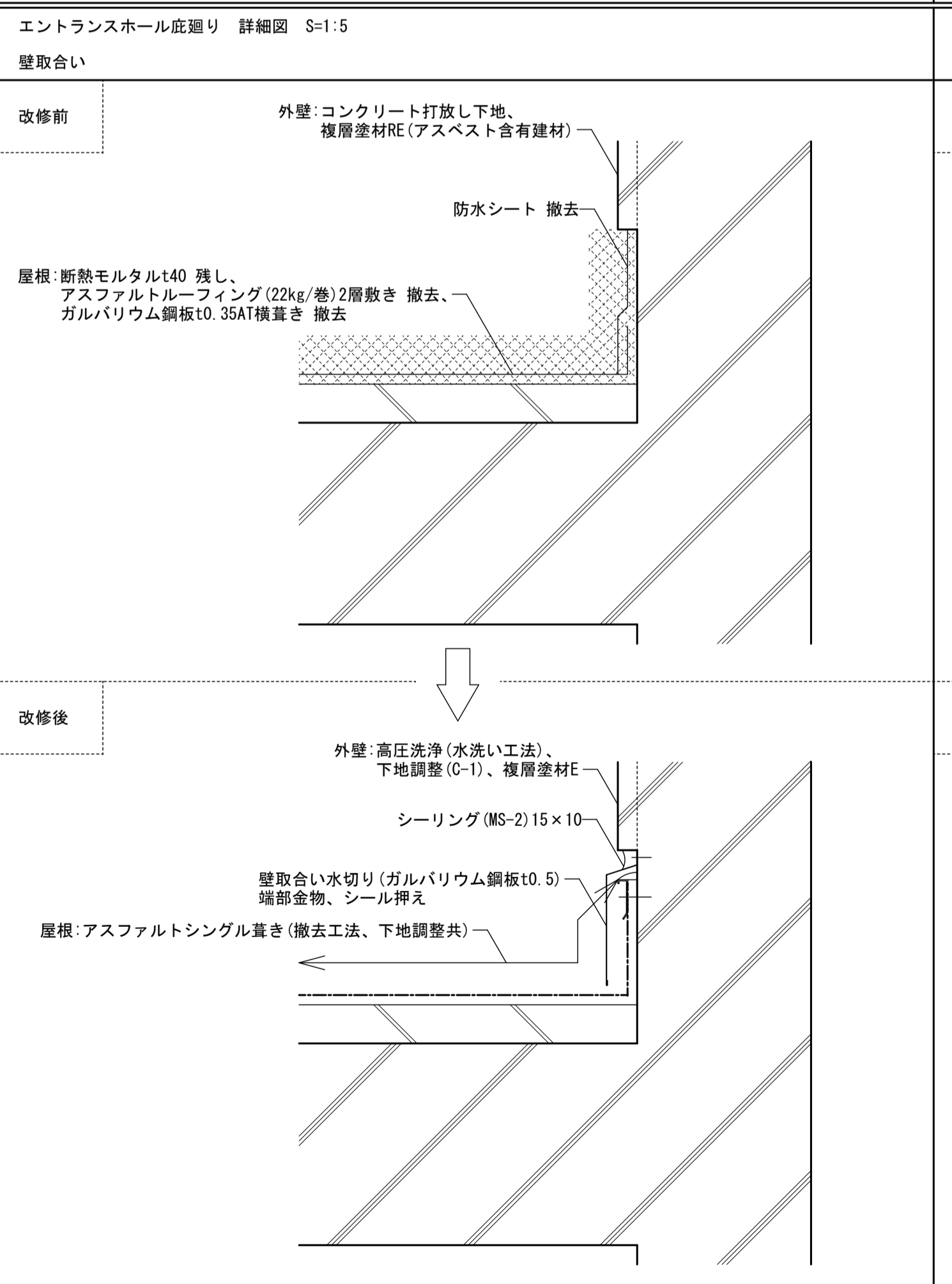
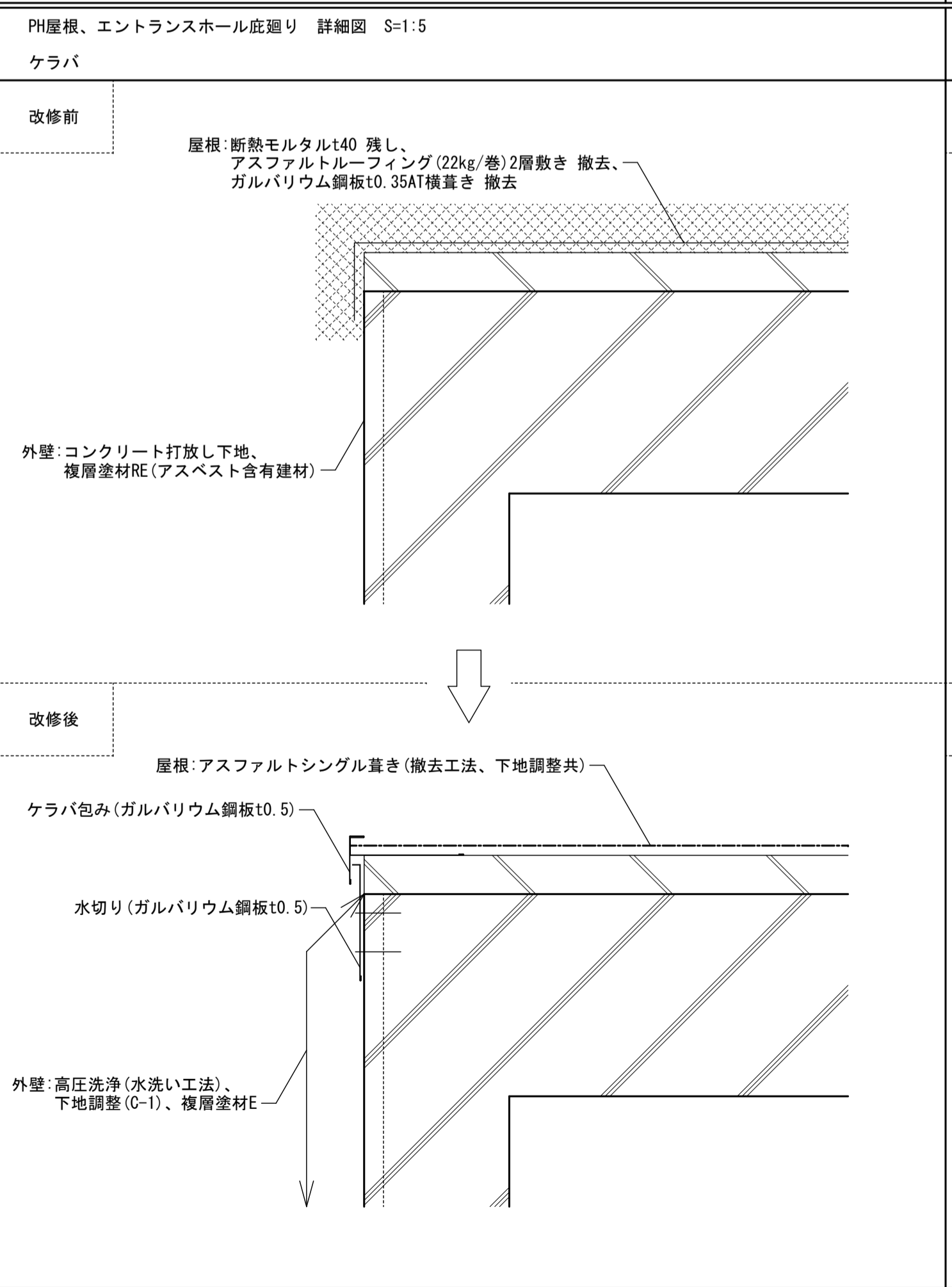
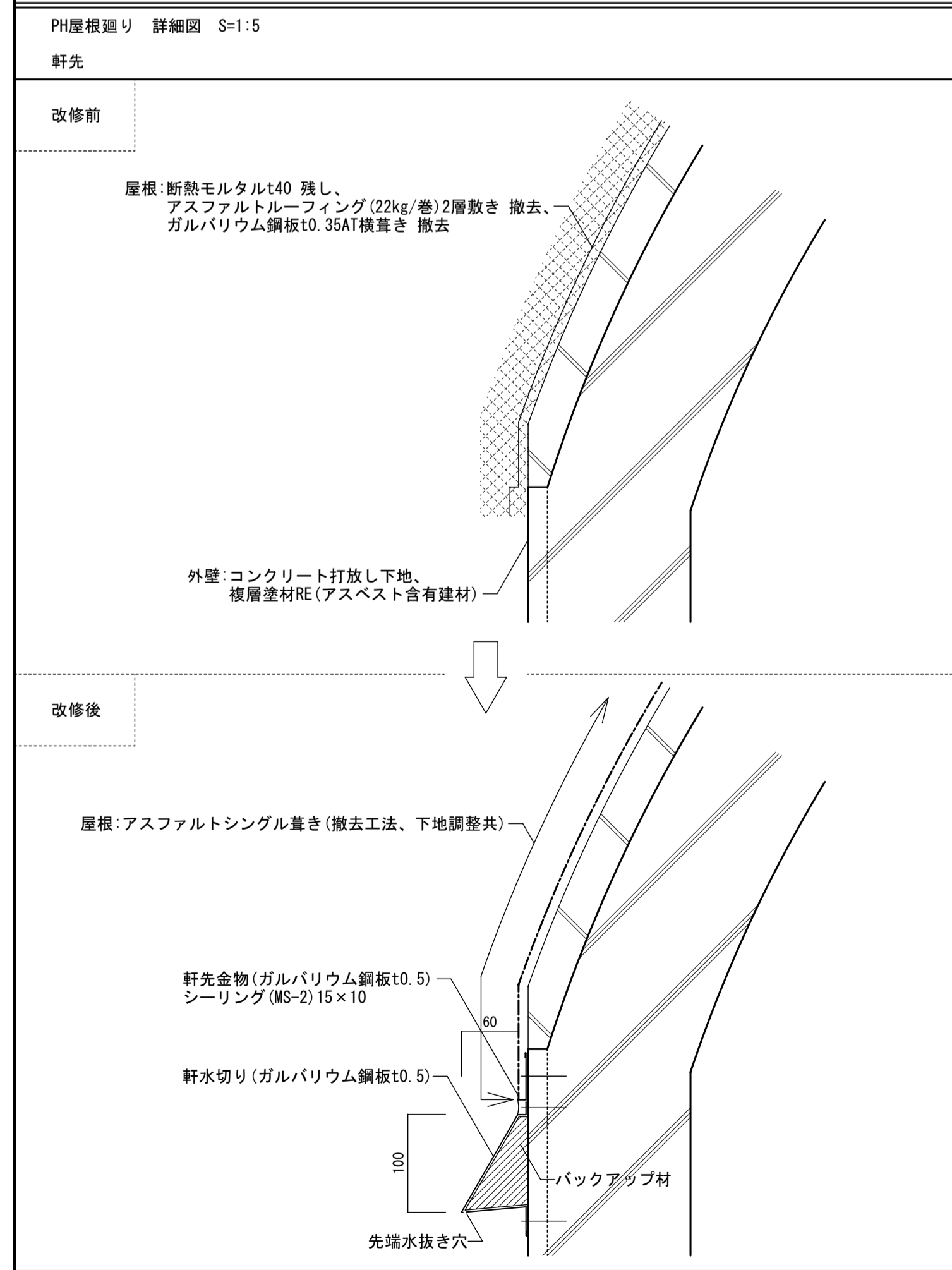
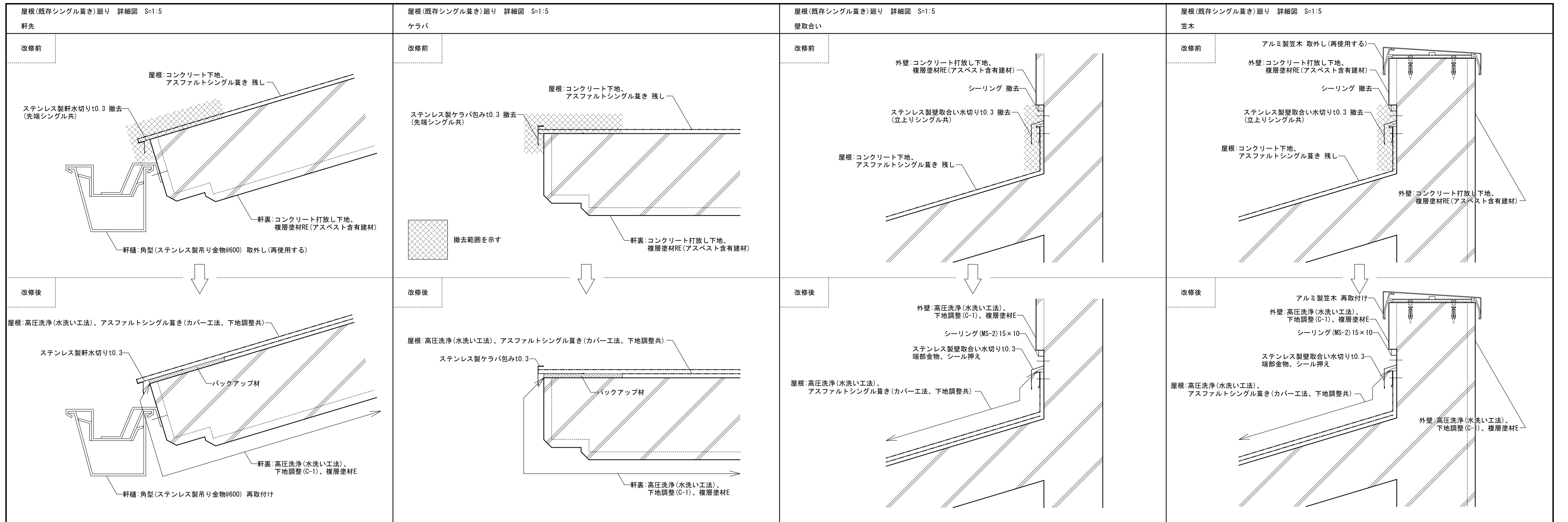
西立面図(F棟) 1:100

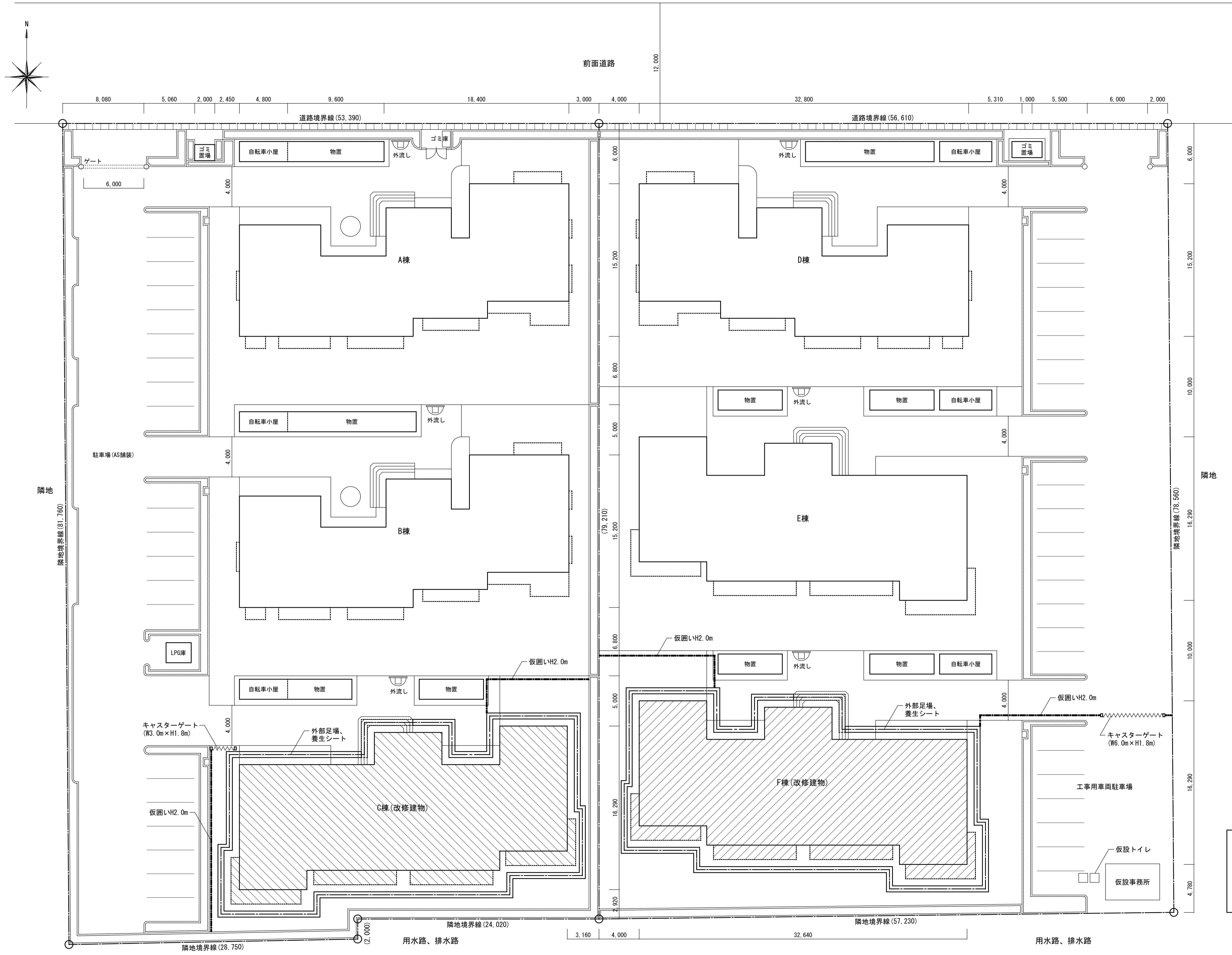


南立面図(F棟) 1:100



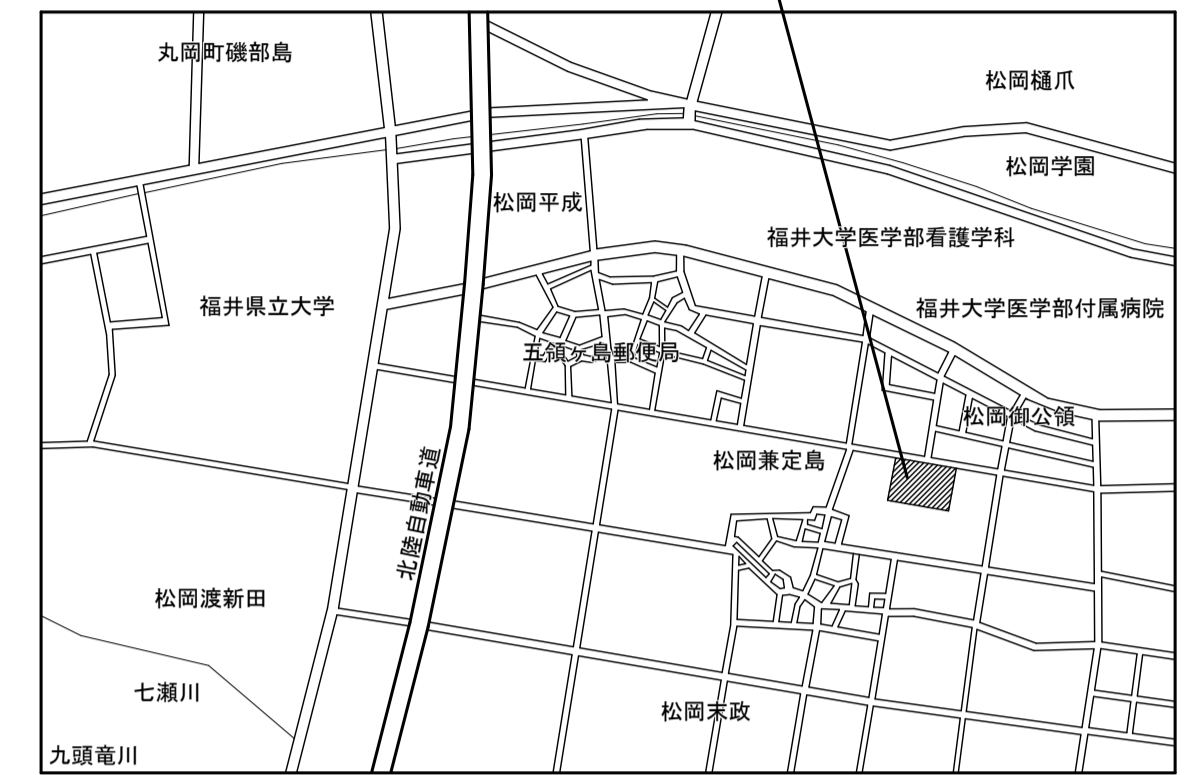
東立面図(F棟) 1:100





配置図 1:200

工事場所: 福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島38-7・8



敷地案内図 N.S

【仮設工事特記事項】

- ・ 工事期間中も居住者が建物を使用するため、建物出入り等に支障がないようにすること。また居住者、来訪者等の安全に十分な配慮をすること。
- ・ 共用廊下、階段、バルコニー等の改修時に居住者への影響が回避できない場合は、工事日程、範囲等を協議の上、工事を行うこと。